志木市の文化財　第43集

# 中野遺跡第71地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

2010

埼玉県志木市教育委員会

# はじめに

志木市教育委員会
教育長　白砂　正明

志木市は埼玉県の南東部に位置し、都心から25km圏内という距離にあるため、住宅建設を始めとする各種開発行為が非常に多い地になっています。

ところで、市域を流れる柳瀬川・新河岸川に面した台地縁辺や荒川低地の自然堤防上には14カ所の埋蔵文化財包蔵地が確認されていて、様々な開発からこれを保護することが文化財保護行政の急務となっています。

当市では、埋蔵文化財の保存のための発掘調査を行い、その成果である貴重な出土品を多く保有していますが、これまでは専用の施設が無いこともあり、これらを分散して保管してきました。そして、このことは出土品の有効な活用を行っていくうえで、大きな障害になってきました。

この度、これを解消するために、展示機能を備えた埋蔵文化財保存施設の建設が計画されることになりましたが、建設予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である中野遺跡内であるため、該当地に存在する埋蔵文化財の取り扱いが問題になり、教育委員会では、その保存方法について検討を重ねました。

その結果、本施設の建設はこれからの文化財保護行政を行っていくうえで必要不可欠であり、そのため当初の計画を進めることにし、該当地の埋蔵文化財の保存に関しては記録保存のための発掘調査を実施することで対応することにしました。

発掘調査では、約7,000年前の縄文時代早期の炉穴や、市内では少ない約3,500年前の縄文時代後期の土器が発見され、多くの成果を得ることができました。

発掘調査・整理作業及び調査報告書刊行につきましては、関係各位の皆様からは多くのご協力をいただきました。ここに、心から感謝申し上げる次第です。

最後に、本書が埋蔵文化財の理解と認識を深めるとともに、志木市の歴史を学ぶための一助になれば幸いに存じます。

# 例　言

1．本書は、埼玉県志木市柏町１丁目に所在する中野遺跡（県No.09-002）の第71地点の発掘調査報告書である。

2．発掘調査及び整理作業は、志木市教育委員会が主体となり、発掘作業は、平成20年11月18日から12月16日まで実施した。

3．調査地点の地番及び面積は、以下のとおりである。

　地　　番：埼玉県志木市柏町１丁目1513－１

　調査面積：634.87㎡（内、発掘調査面積201.4㎡）

4．本書の作成において、編集は佐々木保俊が行い、尾形則敏が補佐した。執筆は下記以外を佐々木保俊が行った。

　第３章第１節　遺構　内野美津江

　第３章第１節（４）包含層出土遺物、第４章　青木　修

5．遺物の実測は、宮川幸佳・成田しのぶ・二階堂美知子・高杉朝子が行った。写真撮影は、佐々木保俊が行い、青木　修が補佐した。

6．出土した遺物及び記録類は、志木市教育委員会で保管している。

7．調査組織

| | |
|---|---|
| 調査主体者 | 志木市教育委員会 |
| 教育長 | 白砂正明（平成20年４月～） |
| 教育政策部長 | 新井　茂（平成17年４～６月、10月～平成21年３月） |
| 〃 | 山中政市（平成21年４月～） |
| 生涯学習課長 | 吉田　洋（平成19年４月～平成21年３月） |
| 〃 | 土岐隆一（平成21年４月～） |
| 生涯学習課副課長 | 土岐隆一（平成20年４月～平成21年３月） |
| 〃 | 饌舘一正（平成21年４月～） |
| 生涯学習課主幹 | 大熊克之（平成19年12月～） |
| 生涯学習課主査 | 佐々木保俊（昭和61年４月～平成21年８月31日） |
| 〃 | 尾形則敏（平成21年４月～） |
| 生涯学習課主任 | 尾形則敏（昭和62年４月～平成21年３月） |
| 〃 | 松永真知子（平成18年４月～） |
| 〃 | 高野雅也（平成20年４月～平成21年７月） |
| 生涯学習課主事補 | 徳留彰紀（平成21年４月～） |
| 志木市文化財保護審議会 | 神山健吉（会長） |
| | 井上國夫・高橋長次・高橋　豊・内田正子（委員） |

8．発掘調査及び整理作業参加者

○発掘調査

　調査担当者　　佐々木保俊

調　査　員　　内野美津江

調査補助員　　宮 川 幸 佳

発掘協力員　　高 杉 朝 子・成田しのぶ・二階堂美知子

○整理作業

調　査　員　　内野美津江

調査補助員　　宮 川 幸 佳・青 木　　修

整理協力員　　高 杉 朝 子・成田しのぶ・二階堂美知子

9．発掘調査および出土品整理作業・発掘調査報告書作成にあたっては、以下の諸機関・諸氏にご教示・ご援助を賜った。記して感謝する次第である（敬称略）。

埼玉県教育局生涯学習部生涯学習文化財課・埼玉県立歴史と民俗の博物館・埼玉県立さきたま史跡の博物館・埼玉県立嵐山史跡の博物館・埼玉県立埋蔵文化財センター・(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団・朝霞市教育委員会・朝霞市博物館・新座市教育委員会・和光市教育委員会・富士見市教育委員会・富士見市立水子貝塚資料館・志木市立志木第四小学校

会 田　明・浅 野 信 英・浅 野 晴 樹・荒 井 幹 夫・飯 田 充 晴・井 上 尚 明・上 田　寛・碓 井 三 子・梅沢太久夫・江 原　順・大 谷　徹・岡 本 東 三・織 笠 明 子・書 上 元 博・柿 沼 幹 夫・加 藤 秀 之・加 藤　緑・金 子 直 行・隈 本 健 介・栗 島 義 明・栗 原 和 彦・栗 原 文 蔵・黒 済 和 彦・小 出 輝 雄・肥 沼 正 和・小久保　徹・齋 藤 欣 延・笹 森 健 一・佐 藤 康 二・塩 野　博・斯 波　治・白 石 浩 之・実 川 順 一・鈴 木 一 郎・鈴木加津子・鈴 木 正 博・高 崎 直 成・田 代　隆・田 中 英 司・坪 田 幹 男・照 林 敏 郎・中島岐視生・中 島　宏・中 村 倉 司・鍋 島 直 久・並 木　隆・根 元　靖・野 沢　均・早 川　泉・早 坂 廣 人・堀　善 之・松 本 富 雄・三 田 光 明・矢 口 孝 悦・柳 井 彰 宏・柳 田 敏 司・領 塚 正 浩・和 田 晋 治・渡 辺 邦 仁・渡 辺　誠

# 凡　　例

1．本書の遺構・遺物の挿図版の指示は、以下のとおりである。

○遺構の略記号は、以下のとおりである。

J＝縄文時代の住居跡　D－土坑　FP＝炉穴　M＝溝跡

○遺構・遺物の挿図版の縮尺は、それぞれに明記した。

○遺物写真図版の縮尺は、任意とした。

○遺構挿図版中の水糸レベルは、海抜標高を示す。

2．遺構の土層説明や土器の記述の中で用いた色彩の表示方法は『新版　標準土色帖　1999年版』農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修によった。

# 目　次

はじめに
例　言
凡　例
目　次
挿図目次
表目次
図版目次
第1章　遺跡の位置と環境 …… 1
　第1節　市域の地形の概要 …… 1
　第2節　市域の遺跡の概要 …… 3
　第3節　遺跡の立地と環境 …… 4
第2章　発掘調査の概要 …… 5
　第1節　調査に至る経過 …… 5
　第2節　発掘調査の経過 …… 5
　第3節　基本層序 …… 8
第3章　検出された遺構と遺物 …… 9
　第1節　縄文時代の遺構と遺物 …… 9
　（1）住居跡 …… 9
　（2）土坑 …… 10
　（3）炉穴 …… 11
　（4）包含層出土遺物 …… 13
　第2節　歴史時代の遺物と遺構 …… 26
　（1）土坑 …… 26
　（2）溝跡 …… 27
第4章　調査のまとめ …… 29
図　版
報告書抄録

## 挿図目次


第1図　市域の地形と遺跡分布（1／20000）…… 2
第2図　中野遺跡と調査地点（1／3000）…… 3
第3図　確認調査時の遺構確認状況（1／300）…… 4
第4図　遺構分布図（1／150）…… 6
第5図　土層図（1／60）…… 8
第6図　3号住居跡（1／60）…… 9
第7図　3号住居跡出土遺物（1／3）…… 9
第8図　106号土坑（1／60）…… 10
第9図　12～16号炉穴（1／60）…… 12
第10図　106号土坑・14・15号炉穴出土遺物（1／3）…… 13
第11図　包含層出土遺物1（4層）（1／3）…… 15
第12図　包含層出上遺物2（4層）（1／3）…… 16
第13図　包含層出土遺物3（4層）（1／3）…… 17
第14図　包含層出土遺物4（4層・7層）（1／3）…… 18
第15図　包含層出土遺物5（7層）（1／3）…… 19
第16図　包含層出土遺物6（8M）（1／3）…… 20
第17図　105号土坑（1／60）…… 26
第18図　7・8号溝跡（1／60）…… 28


## 表目次


第1表　志木市埋蔵文化財包蔵地一覧…… 1
第2表　包含層出土の土器一覧（1）…… 21
包含層出土の土器一覧（2）…… 22
包含層出土の土器一覧（3）…… 23
包含層出土の土器一覧（4）…… 24
包含層出土の土器一覧（5）…… 25
包含層出土の土器一覧（6）…… 26

# 図版目次

図版1　1．表土剥ぎ風景　2．遺構確認風景　3．3号住居跡　4．106号土坑　5．12号炉跡
6．13号炉穴　7．14号炉穴　8．15号炉穴
図版2　1．16号炉穴　2．包含層精査風景　3．105号土坑　4．7号・8号溝跡
5．3号住居跡出土遺物　6．土坑・炉穴出土遺物
図版3　包含層出土遺物1（4層）
図版4　包含層出土遺物2（4層）
図版5　包含層出土遺物3（4層）
図版6　包含層出土遺物4（4層・7層）
図版7　包含層出土遺物5（7層・8M）

# 第１章　遺跡の位置と環境

## 第１節　市域の地形の概要

志木市は埼玉県の南東部に位置し、市の南西は朝霞市・新座市と接し、北東は荒川によって、さいたま市と北西は柳瀬川によって富士見市と画される。市の規模は東西4.73km・南北4.71km・面積9.06㎢を測る。

市域の地形は、市の中央部を南東流する新河岸川によって大略二分され、北東部は荒川（旧入間川）によって形成された低地、南西部は武蔵野台地の野火止台にあたる。より詳しくみると、市の北西部を流れる柳瀬川は流末で90度近く東方に流れを変へ、新河岸川に合流する。

武蔵野台地は古多摩川の扇状地といわれ、標高100mを測る青梅市付近を扇頂にして西から東に向けて大きく広がる。志木市の台地部分は、武蔵野台地の北東端部にあたり、北東に向けて緩やかに傾斜し、南西奥部の新座市との境付近で標高約19m、先端で９m前後を測る。また、朝霞市との境には南西方向に小さな谷が入り込むため、市域の台地部分は大きな舌状を呈している。

荒川が形成した低地は、市域では上流部で標高約６m、下流部で約５mとあまり比高差はないが、部分的に自然堤防がみられ、僅かな起伏が認められる。

| No. | 遺跡名 | 遺跡の規模 | 地目 | 遺跡の種類 | 遺跡の時代 | 主な遺構 | 主な遺物 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 中野 | 63,010 ㎡ | 畑・宅地 | 集落跡 | 旧石器、縄（早～晩）、弥（後）、古（前～後）、平、中・近世 | 石器集中地点、住居跡、土坑、井戸跡、溝跡等 | 石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器等 |
| 3 | 城山 | 79,280 ㎡ | 畑・宅地 | 城館跡・集落跡 | 旧石器、縄（草創～晩）、弥（後）、古（前～後）、奈・平、中・近世 | 石器集中地点、住居跡、土坑、土坑墓、地下室、井戸跡、溝跡、柏城跡関連、鋳造関連 | 石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭、鋳造関連遺物等 |
| 5 | 中道 | 45,860 ㎡ | 畑・宅地 | 集落跡 | 旧石器、縄（早～後）、弥（後）、古（前～後）、平、中・近世 | 石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、土坑墓、地下式坑、溝跡、道路状遺構等 | 石器、縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭、人骨等 |
| 6 | 塚ノ山古墳 | 800 ㎡ | 林 | 古墳？ | 古　墳？ | 古　墳？ | なし |
| 7 | 西原大塚 | 163,930 ㎡ | 畑・宅地 | 集落跡 | 旧石器、縄（前～晩）、弥（後）、古（前～後）、奈・平、中・近世 | 石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡等 | 石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭等 |
| 8 | 新堀 | 16,400 ㎡ | 畑・宅地 | 貝塚・集落跡 | 縄（早～中）、古（前・後）、中・近世、近代 | 貝塚、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡、段状状遺構、ヒット群等 | 石器、貝、縄文・弥生土器、土師器、陶磁器、古銭等 |
| 9 | 城山貝塚 | 900 ㎡ | 林 | 貝塚 | 縄（前） | 斜面貝塚 | 石器、縄文土器、貝 |
| 10 | 田子山 | 62,200 ㎡ | 畑・宅地 | 集落跡 | 縄（草創～晩）、弥（後）、古（後）、奈・平、中・近世、近代 | 住居跡、土坑、方形・円形周溝墓、ローム採掘遺構、溝跡等 | 縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、炭化種子等 |
| 11 | 富士前 | 7,100 ㎡ | 宅地 | 集落跡 | 弥（後）～古（前） | 住居跡 | 弥生土器、土師器 |
| 12 | 馬場 | 2,800 ㎡ | 畑 | 集落跡 | 古（前） | 住居跡？ | 土師器 |
| 13 | 陸軍兵車練跡 | 4,900 ㎡ | グランド | 練跡 | 中世 | 不明 | なし |
| 14 | 窯 | 7,700 ㎡ | 田 | 窯跡 | 中世 | 溝跡・井桁状構築物 | 木・石製品 |
| 15 | 市場裏 | 13,800 ㎡ | 宅地 | 集落跡・墓跡 | 弥（後）～古（前）、近代 | 住居跡・方形周溝墓 | 弥生土器、土師器、かわらけ |
| 16 | 大原 | 1,700 ㎡ | 宅地 | 不明 | 近世以降？ | 溝跡 | なし |
| 合計 | | 470,380 ㎡ | | | | | |

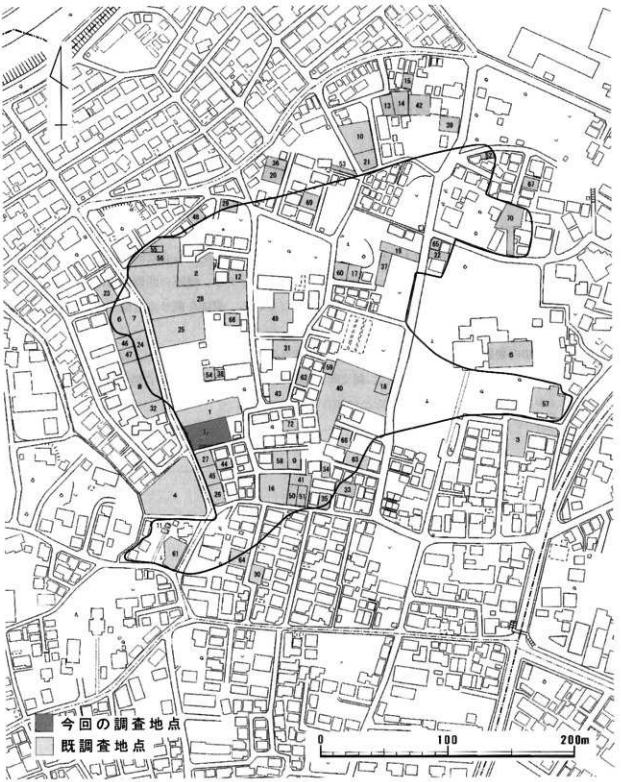
平成21年12月4日 現在

第１表　志木市埋蔵文化財包蔵地一覧

第1図　市域の地形と遺跡分布（1／20000）

## 第２節　市域の遺跡の概要

市域の埋蔵文化財包蔵地は、主に柳瀬川と新河岸川を臨む台地上の縁辺部に集中する。柳瀬川流域には上流から、西原大塚遺跡（旧石器時代、縄文時代早・前・中・後・晩期、弥生時代後期、古墳時代前・




第２図　中野遺跡と調査地点（１／3000）

後期、奈良・平安時代、中・近世)、新邸遺跡(縄文時代前期、弥生時代後期、古墳時代前期、中・近世)、中道遺跡(旧石器時代、縄文時代中期、古墳時代中・後期、奈良・平安時代、中・近世)、城山遺跡(旧石器時代、縄文時代草創・前・中期、弥生時代後期、古墳時代前・中・後期、奈良・平安時代、中・近世)、中野遺跡(旧石器時代、縄文時代中期、弥生時代後期、古墳時代中・後期、奈良・平安時代、中・近世)。柳瀬川と新河岸川の合流する付近に市場裏遺跡(弥生時代後期)。新河岸川流域には田子山遺跡(縄文時代草創・中・後・晩期、弥生時代後期、古墳時代前・後期、奈良・平安時代、近代)、富士前遺跡(弥生時代後期、古墳時代前期)。また、朝霞市との境にある谷の奥部には大原遺跡(近世)がある。

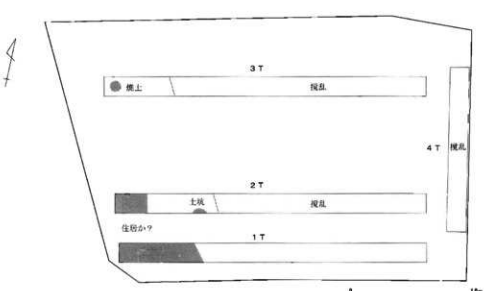
荒川低地には現在、宿遺跡(近世)、馬場遺跡(古墳時代前期)、関根兵庫館跡(近世)があるが、自然堤防上には未発見の遺跡がある可能性も残されている。

## 第3節　遺跡の立地と環境

中野遺跡は、柏町1丁目に位置する面積約63,000㎡の集落跡である。

遺跡は北側に柳瀬川を臨む台地上に位置し、標高9～11mを測り南から北に向かって傾斜する。台地下の低地の標高は6～7mで、台地から低地へなだらかに移行する。遺跡の西側には南方向に入り込んでいる柳瀬川からの狭い谷が認められ、城山遺跡と画している。遺跡を載せる台地上の現状は、大部分が宅地であり僅かに畑地を残している。

本遺跡の最初の発掘調査は昭和59年に志木市遺跡調査会が実施し、それ以降、教育委員会・遺跡調査会が発掘調査を行っていて、旧石器時代、縄文時代早～晩期、弥生時代後期、古墳時代前・後期、奈良・平安時代、中・近世の集落遺跡であることが知られてきている。




第3図　確認調査時の遺構確認状況(1／300)

# 第２章　発掘調査の概要

## 第１節　調査に至る経過

平成19年、志木市では、柏町一丁目地内の旧市民プール跡地に出土品の活用を前提とした埋蔵文化財保管施設の建設の計画された。

そして、志木市教育委員会（以下、教育委員会）では、平成20年度「地域づくり提案事業補助金要綱」に基づき、（仮称）郷土の歴史的遺産を保管・展示する施設整備事業の事前要望書を埼玉県南西部地域振興センターへ提出した。その結果、平成20年７月28日付けで平成20年度埼玉県ふるさと創造資金の中で地域づくり提案事業補助金の交付決定通知書の交付があった。

事業の内容は、平成20年度に旧市民プール跡地の整備及び適正管理用擁壁設置工事を実施し、平成21年度には保管施設建設を実施し完了するというものである。

しかし、この事業の計画にあたる旧市民プール跡地については、周知の埋蔵文化財包蔵地である中野遺跡（No.09-002）内にあるため、当該計画が埋蔵文化財に影響を与える場合には何らかの保存措置を講じる必要があった。

これにより、事前に埋蔵文化財の有無を確認するために埋蔵文化財確認調査を実施することに決定した。

その後、教育委員会は、平成20年11月14日に確認調査を実施した。確認調査は、調査区長軸に３本と短軸に１本の計４本のトレンチを設定し、バックホーで表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った（第３図）。

その結果、４本のトレンチからは、以下のように遺構が確認された。

１号トレンチ（１Ｔ）－現況ＧＬから50㎝で確認面に達し、住居跡と思われる遺構１基を検出した。

２号トレンチ（２Ｔ）－１Ｔで検出された住居跡と思われる続きを確認し、また、土坑と思われる遺構１基を検出した。

３号トレンチ（３Ｔ）－西端に焼土を検出した。

４号トレンチ（４Ｔ）－撹乱が著しく、現況ＧＬから170㎝の深さまでに影響が及んでいる部分もあった。

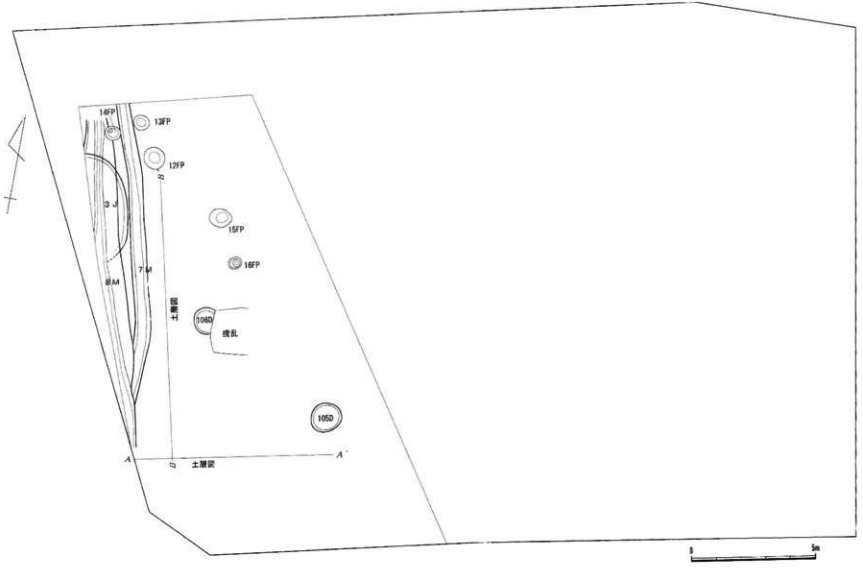
この結果に基づき、教育委員会では、建設計画の変更が不可能であるという結論に達し、保存措置として発掘調査による記録保存を実施することに決定した。

その後、教育委員会では、埋蔵文化財発掘・発掘調査の通知を提出し、11月18日から発掘調査を開始した。

## 第２節　発掘調査の経過

発掘調査は平成20年11月18日から開始し、バックホーでの表土掘削を行う。調査対象面積の約2／3は、プール建設時の掘削により破壊されていた。

11月25日　プール跡部分の土砂の排除とともに、遺構確認作業を実施した。その結果、縄文時代の所産と思われる住居跡・土坑・ホ穴、古墳時代後期のものと思われる住居跡などを検出し、古墳時代の住居跡を67号住居跡（67Ｈ）として調査を始める。




第4図　遺構分布図（1／150）

26日　67Hを精査するが、出土する遺物は縄文時代のものが大部分で、古墳時代の住居跡とするには疑問がわいてきた。

27日　67Hの覆土と思われる黒褐色土の下位に地山である褐色土を確認、67Hが住居跡である可能性が少なくなった。また、土坑状の遺構を検出、105号土坑（105D）とした。

28日　昨夜来の雨のため、南側の調査区境の土砂が崩落。シート・土嚢を使用して養生を行う。67Hの精査を続けるが、覆土と思われていた黒褐色土は縄文時代の遺物包含層であることが確実視されてきた。

12月1日　105・106D、12号炉穴（12FP）の精査を開始する。105Dの覆土は非常に軟質で、下半から骨粉と思われる白色物質を検出した。また、形状が円筒形を呈するなど、近世以降の墓跡と想定された。106Dの覆土は非常に硬質で、縄文時代の遺構の可能性をうかがわせる。12FPの覆土には焼土粒子を多く含む。105Dの土層図を作成する。

2日　105・106D、12FPの精査。13号炉穴（13FP）、7・8号溝跡（7・8M）の調査を開始する。13FPの覆土には焼土粒子を多く含む。105Dの写真撮影を行う。106Dの土層図を作成する。12・13FPの土層図・平面図・断面図の作成、写真撮影を行う。

3日　105・106D精査。106Dの坑底から条痕文系の土器片が出土した。遺物包含層の掘削を開始する。遺物の出土は多い。105Dの土層図修正、平面図・断面図作成、写真撮影を行う。106Dの平面図・断面図の作成、写真撮影を行う。

4日　14号炉穴（14FP）の調査を開始する。覆土には焼土粒子を多く含む。7・8Mの精査。覆土は軟弱で、近世以降の遺構の可能性が高い。8Mに切られて縄文時代の住居跡を検出。3号住居跡（3J）とする。14FPの土層図を作成する。

5日　3Jの調査を開始する。西側の大部分は調査区外。縄文時代中期後半の住居跡と思われるが、遺物の出土は少ない。14FP精査。7・8M精査。南側で重複するが、新旧関係は把握できなかった。遺物包含層掘削。3Jの土層図を作成する。14FPの写真撮影、平面図・断面図を作成する。

8日　3J精査。検出された炉跡は地床炉。床面上から打製石斧が出土。14FP精査。15号（15FP）の調査を開始する。覆土には焼土粒子を多く含む。7・8M精査。遺物包含層掘削。3Jの写真撮影、平面図の作成、レベリングを行う。

9日　15FP精査。7・8M精査。遺物包含層上位の黒褐色土を掘削、下位の褐色土を掘り始める。遺物は黒褐色土ほどではないが、多く出土する。15号炉穴の土層図を作成する。

10日　15号炉穴精査。遺物包含層の黒褐色土・褐色土を掘削する。15号炉穴の写真撮影、平面図・断面図の作成を行う。7・8号溝跡の土層図を作成する。

11日　16号炉穴（16FP）の調査を開始する。プールの建設により上部が破壊されていて、炉底部のみが検出された。遺物包含層を掘削する。16FPの写真撮影、平面図・断面図を作成する。遺物包含層の南北方向の土層図を作成する。

12日　遺物包含層を掘削する。7・8Mの写真撮影、平面図の作成、レベリングを行う。遺物包含層の東西の土層図を作成する。

15日　遺物包含層の掘削を終える。

16日　重機による埋戻し作業を完了する。17日には器材の搬出を行った。

## 第3節　基本層序

今回の調査地点は遺跡の西端にあたり、台地の縁辺部に位置していた。遺跡の西側の台地下には柳瀬川からの谷が南北方向に入っているため、東西方向の層序（A－A′）では東から西に向けて傾斜している。遺跡を載せる台地の傾斜は、現状では南から北に向けて傾斜をもつのであるが、南北方向の層序（B－B′）では北から南に向けての傾斜がみられる。（第5図）

1層　表土。

2層　褐灰色土（10YR4／1）。ローム粒子を僅かに含む。硬質。粘性あり。8号溝跡覆土。

3層　暗褐色土（10YR3／3）。ローム粒子を含む。硬質。粘性あり。8号溝跡覆土。

4層　黒褐色土（10YR3／1）。ローム粒子・赤色粒子を僅かに含む。軟質。

5層　黒褐色土（10YR3／1）。ローム粒子を含む。赤色粒子を僅かに含む。やや硬質。

6層　黒褐色土（10YR3／2）。ローム粒子を僅かに含む。硬質。

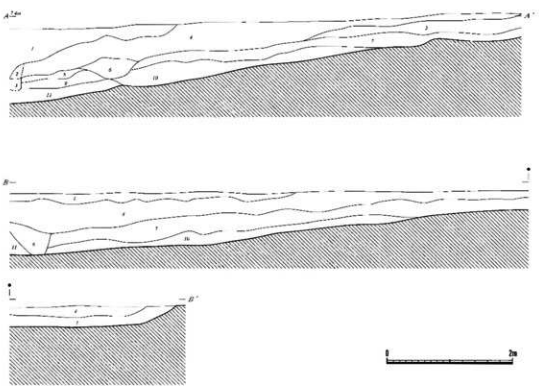
7層　灰黄褐色土（10YR4／2）。ローム粒子を含む。赤色粒子を僅かに含む。硬質。粘性あり。

8層　灰黄褐色土（10YR4／2）。ローム粒子を多く含む。硬質。粘性あり。

9層　黒褐色土（10YR3／2）。ローム粒子を僅かに含む。硬質。粘性あり。

10層　灰黄褐色土（10YR4／2）。ローム粒子を多く含む。硬質。粘性あり。

11層　にぶい黄褐色土（10YR4／3）。ローム粒子を多く含む。硬質。粘性あり。



第5図　土層図（1／60）

# 第３章　検出された遺構と遺物

## 第１節　縄文時代の遺構と遺物

### （１）住居跡

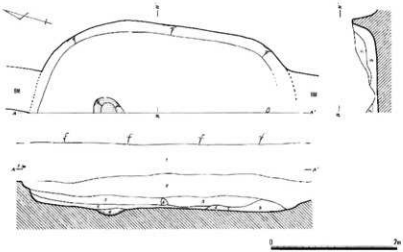
**３号住居跡**（第６図）

［構造］西側は調査区外。７・８号溝跡に切られる。（平面形）楕円形か。（規模）不明。（主軸方位）不明。（壁高）35～38㎝を測り、70°前後の角度で立ち上がる。（壁溝）検出されなかった。（床面）炉周辺に硬化面が認められた。（炉）住居中央から北に偏って位置する。不明×50㎝を測る地床炉で、深さ10㎝の掘り込みを持つ。（柱穴）検出されなかった。

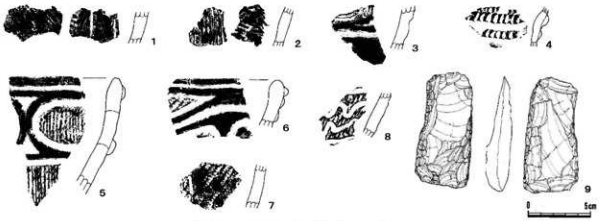
［覆土］

１層　表土。

２層　暗褐色土（7.5YR3／3）。ローム粒子を僅かに含む。軟質。８号溝跡覆土。



第６図　３号住居跡（１／60）



第７図　３号住居跡出土遺物（１／３）

3層　黒褐色土（7.5YR3／2）。ローム粒子を含む。焼土粒子・炭化物粒子を僅かに含む。硬質。

4層　明黄褐色土（10YR6／6）。ロームブロック。硬質。

5層　褐色土（7.5YR4／3）。ローム粒子を多く含む。焼土粒子・炭化物粒子を僅かに含む。硬質。

6層　にぶい褐色土（7.5YR5／4）。ローム粒子・焼土粒子を多く含む。炭化物粒子を僅かに含む。硬質。

［遺物］覆土中から土器片が僅かに出土した。南側床面上から打製石斧が出土した。

［時期］中期後半。

**3号住居跡出土遺物**（第7図）

1・2は内外面に条痕文が施される。色調は1が橙色（5YR6／6）、2がにぶい赤褐色（2.5YR5／4）を呈し、胎土には繊維を僅かに含む。

3は隆帯により楕円形の区画が作られようか。色調はにぶい赤褐色（2.5YR5／4）を呈し、胎土には雲母を多く含む。

4は刻みが付加された隆帯が2本、横位に貼付される。上部の空白部には、半截竹管による集合沈線が施されようか。色調は灰褐色（5YR4／2）を呈し、胎土には細砂・輝石を僅かに含む。

5はLの撚糸文を地文とし、口縁部には隆帯による楕円形の区画が作られる。色調はにぶい赤褐色（5YR5／3）から灰褐色（5YR4／2）を呈し、胎土には細砂・細礫を僅かに含む。

6はRLの単節斜縄文を地文とし、2本一対の隆帯により区画が作られるようである。色調は明赤褐色（2.5YR5／6）を呈し、胎土には粗砂・灰白色チャートを含む。

7はRLの単節斜縄文を地文とし、平行沈線が垂下するようである。色調はにぶい褐色（7.5YR6／3）を呈し、胎土には細礫を多く含む。

8はRの撚糸文を地文とする。沈線間に2条の波状沈線がみられる。色調は灰褐色（5YR5／2）を呈し、胎土には粗砂・輝石を多く含む。

9は短冊形の打製石斧。長さ93.2㎜・幅43.5㎜・厚さ19.0㎜・重さ92ｇ。横長の剥片を素材とする。刃部は平刃状を呈する。砂岩製。

## （2）土　坑

**106号土坑**（第8図）

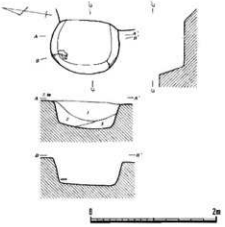
［構造］東側は攪乱されている。（平面形）楕円形か。（規模）不明×110㎝・深さ40㎝前後を測る。坑底は平坦で、壁は80°前後の角度で立ち上がる。（長軸方位）N－80°－E。

［覆土］

1層　黒褐色土（10YR3／1）。ローム粒子を僅かに含む。やや硬質。

2層　暗褐色土（10YR3／3）。ローム粒子を多く含む。炭化物粒子を僅かに含む。硬質。

3層　黒褐色土（10YR3／2）。ローム粒子を多く含む。赤色粒子を僅かに含む。硬質。



第8図　106号土坑（1／60）

［遺物］坑底から僅かに浮いた状態で大型の土器片が出土した。

［時期］早期後半。

**106号土坑出土遺物**（第10図１～３）

１は北壁下、坑底から５cm程浮いた状態で出土した口縁部破片である。底部から単純に開く深鉢形土器で、口唇部下が僅かに括れる。外面は口縁部が横位、以下、斜位に条痕文が施される。口唇端部は平坦で、条痕文が加えられる。内面は繊維痕による凹凸が顕著である。色調はにぶい赤褐色（5YR5／3）からにぶい褐色（7.5YR5／3）を呈する。

２・３は覆土中の出土。外面に条痕文が認められる。色調は２がにぶい褐色（7.5YR5／4）、３がにぶい赤褐色（5YR5／3）を呈する。

いずれも胎土には繊維を多く含む。

## （３）炉　穴

**12号炉穴**（第９図）

［構造］（平面形）楕円形。（規模）92×87cm・深さ25cmを測る。断面は椀状を呈し、壁は50°前後の角度で立ち上がる。坑底に被熱の痕跡が僅かに認められた。（長軸方位）N－30°－E。

［覆土］

１層　褐色土（7.5YR4／3）。ローム粒子を多く含む。焼土粒子を僅かに含む。やや硬質。

２層　褐色土（7.5YR4／3）。ローム粒子・焼土粒子を多く含む。焼土小ブロックを僅かに含む。硬質。

３層　灰褐色土（7.5YR4／2）。ローム粒子を多く含む。焼土粒子を僅かに含む。硬質。

［遺物］覆土中から土器小片１点が出土したが、図示できなかった。

［時期］早期後半。

**13号炉穴**（第９図）

［構造］（平面形）楕円形。（規模）70×60cm・深さ10cm前後を測る。断面形は皿状を呈し、壁は50°前後の角度で立ち上がる。坑底に被熱の痕跡が僅かに認められた。（長軸方位）N－32°－E。

［覆土］

１層　橙色（5YR6／6）。ローム粒子・焼土粒子を多く含む。焼土小ブロックを僅かに含む。硬質。

２層　黄褐色土（10YR5／6）。ローム粒子を多く含む。焼土粒子を僅かに含む。硬質。

［遺物］出土はなかった。

［時期］早期後半か。

**14号炉穴**（第９図）

［構造］８号溝跡に切られる。（平面形）楕円形。（規模）70×50cm・深さ20cm前後を測る。断面は椀状を呈し、壁は70°前後で立ち上がる。坑内西側に深さ18cmのピットが検出された。坑底に被熱の痕跡が僅かに認められた。（長軸方位）N－20°－E。

［覆土］

１層　褐色土（7.5YR4／3）。ローム粒子・焼土粒子を含む。硬質。

２層　褐色土（7.5YR4／4）。ローム粒子・焼土粒子を多く含む。焼土小ブロックを僅かに含む。硬質。

3層　灰褐色土（7.5YR4／2）。ローム粒子を僅かに含む。焼土粒子を含む。硬質。

4層　灰黄褐色土（10YR5／2）。ローム粒子を多く含む。焼土粒子を僅かに含む。硬質。

5層　黄褐色土（10YR5／6）。ローム粒子を多く含む。焼土粒子を含む。硬質。

［遺物］覆土中から土器片1点が出土した。

［時期］早期後半。

**14号炉穴出土遺物**（第10図4）

小波状口縁の土器になろうか。外面にはＲＬの単節斜縄文、内面には斜位に条痕文が施される。色調は橙色（5YR6／6）を呈し、胎土には片岩・輝石・繊維を僅かに含む。

**15号炉穴**（第9図）

［構造］（平面形）楕円形。（規模）85×75㎝・深さ10～35㎝を測る。坑底は西側に向けて傾斜をもち、45×35㎝の範囲で被熱のため赤化している。壁は60°前後の角度で立ち上がる。（長軸方位）N－20°－W。

［覆土］

1層　褐色土（7.5YR4／4）。ローム粒子を多く含む。焼土粒子・小ブロックを含む。硬質。

2層　褐色土（7.5YR4／3）。ローム粒子を含む。焼土粒子を僅かに含む。硬質。

3層　褐色土（7.5YR4／4）。ローム粒子を多く含む。焼土粒子を僅かに含む。硬質。

4層　褐色土（7.5YR4／4）。ローム粒子を多く含む。焼土小粒子を僅かに含む。硬質。

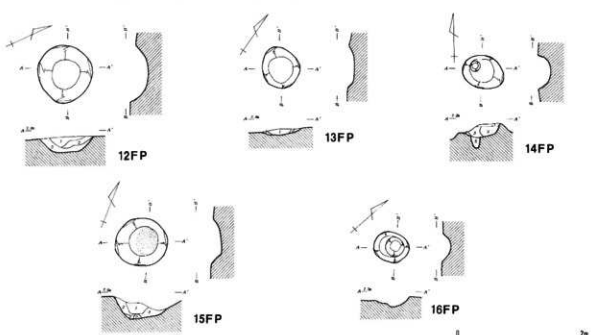
5層　赤褐色土（5YR4／6）。ローム粒子・焼土粒子を多く含む。焼土小ブロックを含む。硬質。

［遺物］覆土中から土器片が5点出土した。

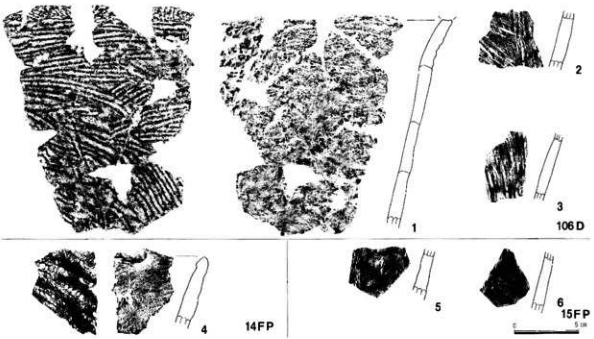
［時期］早期後半。

**15号炉穴出土遺物**（第10図5・6）

5・6は同一個体の可能性がある。外面は条痕文を磨り消しているようである。色調はにぶい橙色（5YR6／4）を呈し、胎土には細砂・繊維を僅かに含む。




第9図　12～16号炉穴（1／60）




第10図　106号土坑・14・15号炉穴出土遺物（1／3）

**16号炉穴**（第9図）

［構造］撹乱により、坑底のみ確認。（平面形）楕円形。（規模）55×45cm・深さ15cm前後を測る。坑底は東側に段をもち、壁は60°前後の角度で立ち上がる。被熱を受けた痕跡が僅かに認められる。（長方位）N－50°－W。

［覆土］僅かに残っている覆土は、ローム粒子・焼土粒子を多く含むにぶい黄褐色土（10YR4／3）で硬質。

［遺物］出土はなかった。

［時期］早期後半か。

## （4）包含層出土遺物

第3図の基本層序に基づき、遺物の取り上げを行った。包含層の堆積状況は、南から北へ下る現地形と異なり、北から南への下り傾斜をもつものであった。包含層中の遺物は、基本層序における4層・7層からの出土が中心であった。加えて、8号溝跡からも縄文土器がややまとまって出土したため、ここでは①4層中、②7層中、③8号溝跡中に分けて記述する。

また、4層中からは縄文時代以外の遺物も出土したが、ここで併せて記すものとする。

**①4層中**（第11～14図・第2表）

4層は、確認できた部分で標高7.3～6.6mに位置し、その厚さは20～50cmを測る。縄文時代の土器を中心に打製石斧1点、弥生土器・土師器・須恵器が出土した。土器類の総量は、約17.8kg。内訳は縄文時代早期0.9%・前期0.8%・中期50.4%・後期21.4%・時期不明14.2%、弥生時代後期末葉～古墳時代前期0.4%、古墳時代後期～平安時代の土師器0.7%・須恵器10.9%、平安時代の灰釉陶器0.3%、中世以降の陶器（常滑甕）0.2%で、中でも縄文時代中期後半から後期前半の土器が目立った。縄文時代以外の遺物で図示できるものは弥生土器、平安時代の土師器・須恵器の一部に限られた。

**縄文時代早期の土器群**（1～5）

いずれも、後半条痕文系土器の破片である。1～4は貝殻条痕文のみ施文・5は無文で型式は不明。

**縄文時代前期の土器群**（6～9）

6・7は中葉の羽状縄文系の繊維土器で、6の原体は合撚の縄文。8・9は後葉の諸磯式土器で、どちらも半截竹管による半行沈線文を主文様とする。

**縄文時代中期の土器群**（10～47）

10～13は初頭の五領ヶ台式で集合沈線文が主体となる。14は前～中葉の阿玉台式。15・16は中葉の勝坂式。17～46は後葉の加曽利E式。17～19は縄文と隆帯による文様構成、20・21は撚糸文を地文とするもの。22～28は条線文を地文とするもの。29～35は微隆起もしくは沈線で、口縁部に幅の狭い無文帯を区画するもの。36～42は縄文と沈線によって文様が構成されるもの。43～46は縄文と微隆起線文で文様構成されるもの。

47は連弧文土器の破片。

**縄文時代後期の土器群**（48～127）

48～68は初頭の称名寺式で、帯縄文や沈線と磨消の帯によるJ字文やスペード文など、区画文で文様が構成されるもの。そのうち66～68は縄文を持たず、列点を充填するもの。69～74は称名寺式、もしくは堀之内式と思われる上器。75～99は前葉の堀之内式上器。そのうち75～88は堀之内1式で、沈線による懸垂文をもつものが主体となる。76・86～88は地文縄文。89～95は堀之内2式。100～113は中葉の加曽利B式土器。100～104は口唇部直下に、刻みを持つ細い隆線が巡るもので、堀之内2式から加曽利B1式期の所産と考えられる。110～112は注口上器であろうか。114～118は後期と思われるが型式不明の土器片。119～127には粗製土器を一括した。

**縄文時代の石器**（128）

128は打製石斧である。石材はホルンフェルス。長さ78.8㎜・幅49.2㎜・厚さ20.3㎜・重さ90gを測る。

**弥生時代後期末葉～古墳時代前期の土器**（129・130）

129・130は壺形土器である。いずれも小破片で、外面には単節斜縄文を施した後、2段の自縄結節文が施されている。無文部には赤彩が施される。

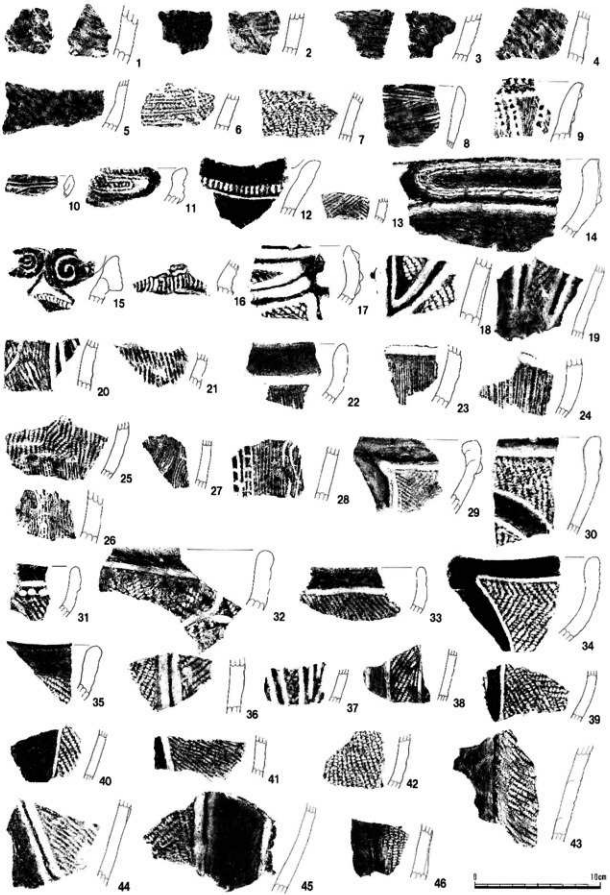
**平安時代の須恵器・土師器**（131～135）

131～134は須恵器で、131は坏形土器の体部下半から底部にかけての破片である。色調は淡灰褐色を呈し、胎土には白色砂粒を僅かに含む。ロクロ回転は右回転で、底部には回転糸切り痕が残る。時期は9世紀以降で、東金子製品と思われる。132は長頸瓶の頸部である。内面口縁部直下には蓋受部のものと思われる段を有する。色調は青灰色を呈し、胎土には白色砂粒を含む。133・134は甕形土器で、133は口縁部から頸部にかけての破片である。口縁部は外反し、複合口縁を呈する。色調は灰褐色を基調とし、胎土には白色砂粒を含む。134は胴部破片で、色調は灰色を呈し、胎土には白色砂粒を含む。内面には当て道具痕（無文）、外面には平行叩き目痕が残る。

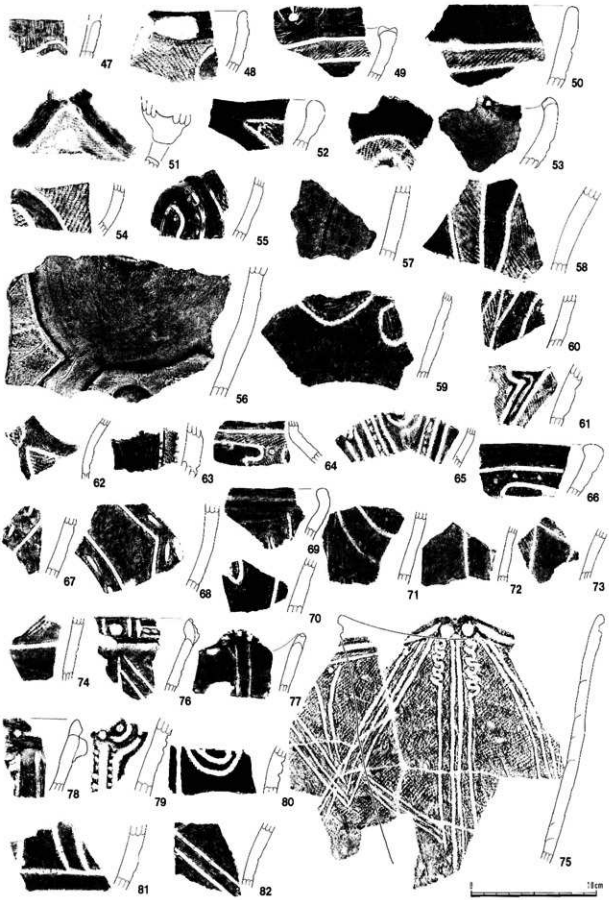
135は土師器で、台付甕の胴部下半から脚台部にかけての破片である。色調は内面が暗黄褐色、外面が淡茶褐色を呈し、胎土には黄褐色粒子・砂粒を含む。内面は胴部がヘラナデ、脚台部は横ナデが施される。外面は横ナデが施される。

**②7層中**（第14・15図・第2表）

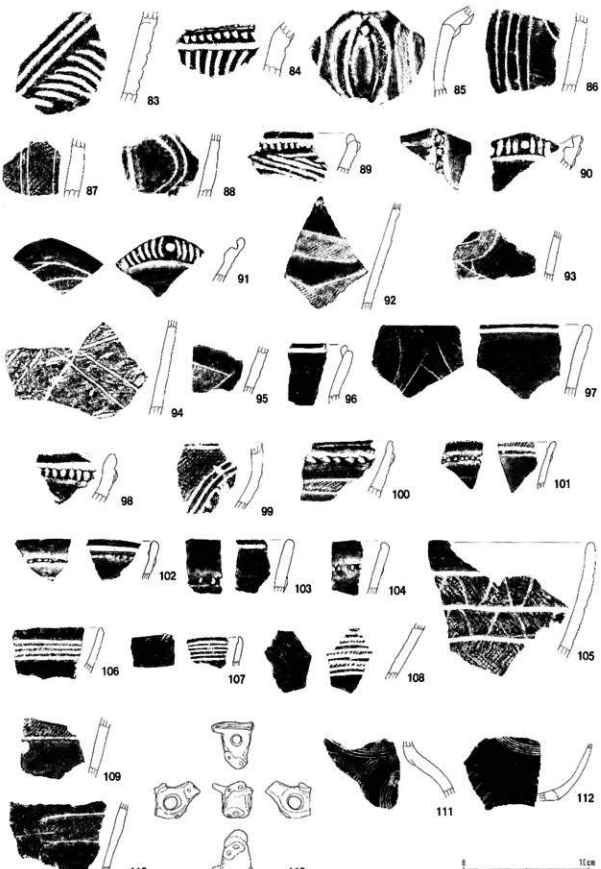
7層は、確認できた部分で標高7.3～6.4mに位置し、その厚さは部分的にばらつきはあるものの概ね



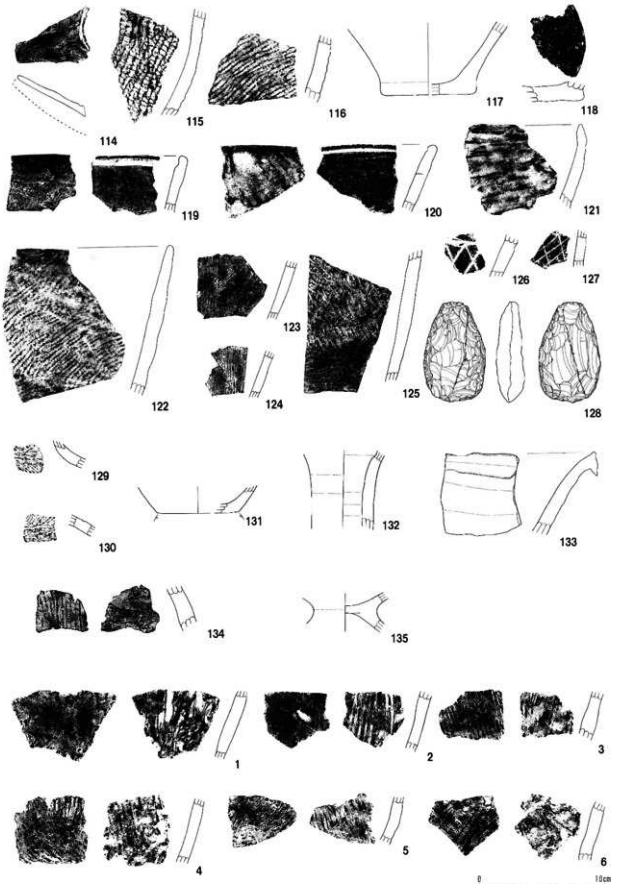

第11図　包含層出土遺物1（4層）（1／3）



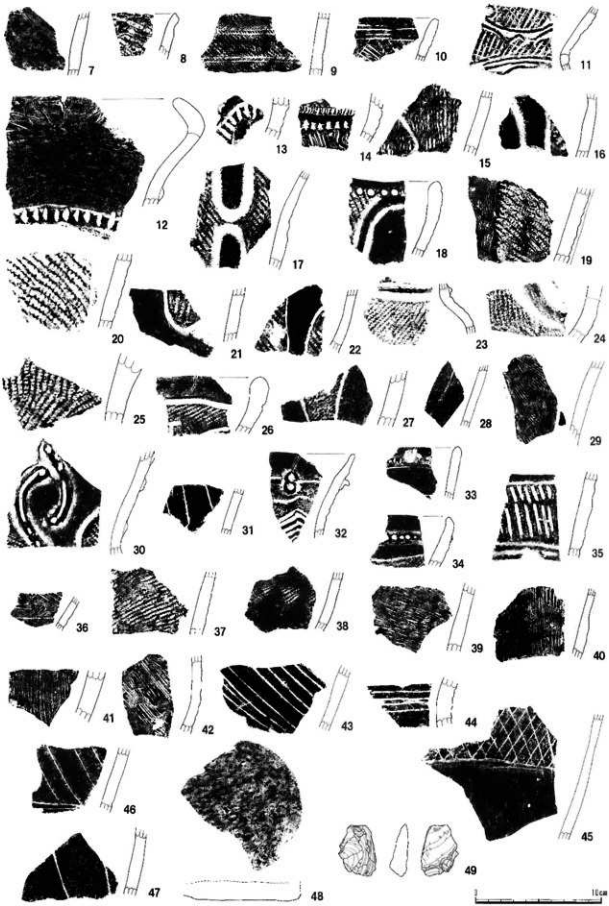

第12図　包含層出土遺物２（４層）（１／３）



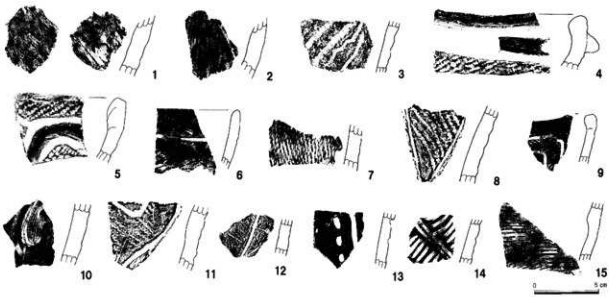

第13図　包含層出土遺物３（４層）（１／３）




第14図　包含層出土遺物４（４層・７層）（１／３）




第15図　包含層出土遺物５（７層）（１／３）




第16図　包含層出土遺物６（８Ｍ）（１／３）

20cm程度であった。出土遺物は縄文時代のものに限られ、土器、総量約2.8kg と打製石斧１点が出土した。内訳は早期６％、前期１％、中期58%、後期14%、時期不明21%で、４層同様、中期後半から後期前半の土器が中心であった。

**縄文時代早期の土器群**（１～７）

いずれも早期後半条痕文系の貝殻条痕文を施文する胴部片である。

**縄文時代前期の土器群**（８～10）

８は中葉の羽状縄文系の繊維土器、９・10は後葉の諸磯式の破片である。

**縄文時代中期の土器群**（11～25）

11は半截竹管による二重の隆線で文様を区画し、集合沈線を充填する。二重の隆線はその一部を分離し三角形の隙間を作り、その内側を切削し陰刻文としている。また隆線で小さな円を描きその内側も陰刻している。初頭の五領ヶ台式であろう。12・13は中葉の勝坂式。14は型式不明だが中期前半の所産と思われる。15～25は後葉の加曽利Ｅ式。24は地文に複節縄文を持つ。

**縄文時代後期の土器群**（26～48）

26～29は称名寺式。30～36は堀之内式。37～44・48は後期の所産と思われるが、詳細不明なもの。45～47は粗製土器を一括した。

**縄文時代の石器**（49）

49は二次加工痕のある剥片で、石材は黒曜石。長さ41.8㎜・幅27.3㎜・厚さ12.2㎜・重さ9.8g を測る。

**③８号溝跡中**（第16図・第２表）

縄文時代の中期後半、後期前半の土器を中心に平安時代の須恵器１点が出土した。

**縄文時代早期の土器群**（１・２）

１・２は条痕文系土器の破片である。いずれも貝殻条痕文施文の胴部片で、型式は不明。

**縄文時代中期の土器群**（３～８）

３は勝坂式の胴部片で胎土への金雲母の混入が顕著である。４～８は加曽利Ｅ式。

| 挿図番号 | 部位 | 文様・特徴など | 色　調 | 時期・型式 | 胎土混入物 | | | | | 出土位置 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 石 | 角 | 雲 | 砂 | 他 | | |
| 第11図　1 | 胴 | 貝殻条痕文（内外面） | 赤褐 5YR4/6 | 条痕文系 | ○ | | | ○ | 繊・白 | 4層 | 内面は黒色 |
| 第11図　2 | 胴 | 貝殻条痕文（内外面） | 明赤褐 5YR5/6 | 条痕文系 | | | | ○ | 繊 | 4層 | 内面は黒色 |
| 第11図　3 | 胴 | 貝殻条痕文（内外面） | 明赤褐 2.5YR5/6 | 条痕文系 | | | | ○ | 繊 | 4層 | 内面は灰褐色 |
| 第11図　4 | 胴 | 貝殻条痕文（内外面） | にぶい赤褐 2.5YR4/4 | 条痕文系 | | | | ○ | 繊 | 4層 | |
| 第11図　5 | 胴 | 内外面指頭によるナデ調整痕か | 明赤褐 2.5YR5/8 | 条痕文系 | | | | ○ | 繊 | 4層 | 内面は灰褐色 |
| 第11図　6 | 胴 | 合撚（L） | 橙 5YR6/6 | 関山？ | | | | ○ | 繊 | 4層 | 内面はにぶい黄橙 |
| 第11図　7 | 胴 | 羽状縄文 | にぶい赤褐 5YR4/4 | 羽状縄文系 | | | | ○ | 繊・褐 | 4層 | |
| 第11図　8 | 口縁 | 半截竹管による平行沈線文 | 灰褐 7.5YR4/2 | 諸磯b | ○ | | | ○ | | 4層 | |
| 第11図　9 | 口縁 | 口唇部に2条の結節浮線文を巡らせ、さらに縦位に垂下/半截竹管による縦位の平行沈線文 | 赤褐 5YR4/6 | 諸磯c | | | | ○ | | 4層 | |
| 第11図　10 | 口縁 | 内側への折り返し口縁/半截竹管による平行沈線文/集合沈線による格子目文 | 褐 7.5YR4/3 | 五領ヶ台 | | | | ○ | 金 | 4層 | 内面は黒色 |
| 第11図　11 | 口縁 | 小波状口縁/口唇部隆帯上に刻み/平行沈線区画による口縁部文様帯内に集合沈線 | 赤褐 5YR4/6 | 五領ヶ台 | | | | ○ | 金 | 4層 | 内面灰褐色 |
| 第11図　12 | 口縁 | 波状口縁/口縁部に沿った沈線と角押文 | 褐灰 7.5YR4/1 | 五領ヶ台 | | | | ○ | | 4層 | |
| 第11図　13 | 胴 | 集合沈線文 | 暗赤褐 5YR3/4 | 五領ヶ台 | | | | ○ | 金 | 4層 | 内面は褐色 |
| 第11図　14 | 口縁 | 隆帯区画による口縁部文様帯/隆帯に沿った押引文 | 暗赤褐 5YR3/4 | 阿玉台 | | | ○ | ○ | 金 | 4層 | |
| 第11図　15 | 口縁 | 渦巻形の突起/突起部直下に押引文 | にぶい赤褐 5YR4/4 | 勝坂 | | | | ○ | 金 | 4層 | |
| 第11図　16 | 胴 | 鋸歯状の沈線文/幅広の連続爪形文 | 暗赤褐 2.5YR3/4 | 勝坂 | | | | ○ | | 4層 | |
| 第11図　17 | 口縁 | 隆帯区画による口縁部文様帯/縄文RL | 黒褐 7.5YR3/1 | 加曽利E Ⅰ～Ⅱ | | | | ○ | | 4層 | |
| 第11図　18 | 胴 | 隆帯による懸垂文/縄文RL | 橙 5YR6/6 | 加曽利E Ⅰ～Ⅱ | ○ | | | ○ | | 4層 | 内面は褐灰色 |
| 第11図　19 | 胴 | 隆帯と磨消による懸垂文/縄文RL | にぶい赤褐 5YR5/4 | 加曽利E Ⅱ～Ⅲ | | | | ○ | | 4層 | |
| 第11図　20 | 胴 | 沈線による懸垂文/撚糸文L | 褐灰 5YR4/1 | 加曽利E Ⅱ | | | | ○ | | 4層 | 内面はにぶい黄褐色 |
| 第11図　21 | 胴 | 撚糸文L | 橙 5YR6/6 | 加曽利E | | | | ○ | | 4層 | 内面黒色 |
| 第11図　22 | 口縁 | 沈線区画による口縁部無文帯/縦位条線文 | にぶい橙 7.5YR7/4 | 加曽利E Ⅳ | ○ | | | ○ | | 4層 | 内面灰褐色 |
| 第11図　23 | 胴 | 沈線（口縁部無文帯区画か？）/縦位条線文 | 暗赤褐 5YR3/4 | 加曽利E Ⅳ | | | ○ | ○ | | 4層 | 内面黒褐色 |
| 第11図　24 | 胴 | 縦位条線文 | にぶい橙 7.5YR6/4 | 加曽利E Ⅳ | | | | ○ | | 4層 | 内面灰褐色 |
| 第11図　25 | 胴 | 縄文RL/条線文 | にぶい橙 7.5YR6/4 | 加曽利E | | | | ○ | 褐 | 4層 | 内面にぶい褐色 |
| 第11図　26 | 胴 | 蛇行条線文 | 黒褐 5YR3/1 | 加曽利E | | | | ○ | 褐 | 4層 | 内面にぶい褐色 |
| 第11図　27 | 胴 | 蛇行条線文 | にぶい橙 7.5YR6/4 | 加曽利E | | | | ○ | | 4層 | |
| 第11図　28 | 胴 | 条線文/半截竹管による蛇行した懸垂文・2本の押引文 | 明赤褐 2.5YR5/7 | 曽利？ | ○ | ○ | | ○ | | 4層 | 内面黒色 石英の混入が顕著 |
| 第11図　29 | 口縁 | 波状口縁/被隆起と沈線による区画文/縄文L, R | 橙 7.5YR7/6 | 加曽利E Ⅳ | | ○ | | ○ | | 4層 | |
| 第11図　30 | 口縁 | 被隆起区画による口縁部無文帯/沈線と磨消による曲線文/縄文RL | 橙 5YR6/6 | 加曽利E Ⅳ | | | | ○ | | 4層 | |
| 第11図　31 | 口縁 | 沈線区画による口縁部無文帯/円形の刺突列文/縄文RL | 橙 7.5YR6/6 | 加曽利E Ⅳ | | | ○ | ○ | | 4層 | 内面赤彩か？ |
| 第11図　32 | 口縁 | 沈線区画による口縁部無文帯/沈線による曲線文/縄文LR | 橙 7.5YR6/6 | 加曽利E Ⅳ | | | | ○ | 白 | 4層 | |
| 第11図　33 | 口縁 | 沈線区画による口縁部無文帯/縄文RL | にぶい黄橙 10YR7/3 | 加曽利E Ⅳ | | | | ○ | 褐 | 4層 | 内面はにぶい灰黄褐色 |
| 第11図　34 | 口縁 | 沈線区画による無文帯/縄文RL | 黒褐 7.5YR3/1 | 加曽利E Ⅳ | | | | ○ | | 4層 | 内面はにぶい橙 |
| 第11図　35 | 口縁 | 口縁部無文帯/縄文LR | にぶい橙 7.5YR6/4 | 加曽利E Ⅳ | | | | ○ | | 4層 | |

石：石英　角：角閃石・輝石　雲：雲母　砂：砂粒　繊：繊維　白：白色粒子　褐：褐色粒子　金：金雲母

第2表　包含層出土土器一覧（1）

| 挿図番号 | 部位 | 文様・特徴など | 色　調 | 時期・型式 | 胎土混入物 | | | | | 出土位置 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 石 | 角 | 礫 | 砂 | 他 | | |
| 第11図 36 | 胴 | 2本の沈線による懸垂文/縄文R L | 浅黄橙 10YR8/4 | 加曽利E Ⅱ | | | | ○ | | 4層 | |
| 第11図 37 | 胴 | 沈線による懸垂文/縄文R L | 橙 7.5YR7/6 | 加曽利E Ⅱ～Ⅲ | | | | ○ | | 4層 | 内面に煤状の付着物 |
| 第11図 38 | 胴 | 磨消懸垂文/縄文R L | にぶい橙 7.5YR6/4 | 加曽利E Ⅱ～Ⅲ | | | | ○ | | 4層 | 内面灰褐 |
| 第11図 39 | 胴 | 沈線による区画文/縄文L R | 橙 7.5YR6/6 | 加曽利E Ⅲ～Ⅳ | | | | ○ | | 4層 | |
| 第11図 40 | 胴 | 沈線による区画文/縄文L R | にぶい橙 5YR6/4 | 加曽利E Ⅳ | | | | ○ | | 4層 | 内面黒褐色 |
| 第11図 41 | 胴 | 沈線による区画文/縄文L R | にぶい褐 7.5YR6/3 | 加曽利E Ⅳ | | ○ | | ○ | | 4層 | |
| 第11図 42 | 胴 | 沈線/縄文L R | 橙 7.5YR6/6 | 加曽利E | ○ | | | ○ | | 4層 | |
| 第11図 43 | 胴 | 微隆起線による懸垂文/縄文L R | 褐灰 7.5YR4/1 | 加曽利E Ⅲ～Ⅳ | | | | ○ | 褐 | 4層 | |
| 第11図 44 | 胴 | 微隆起線による懸垂文/縄文L R | 明赤褐 5YR5/6 | 加曽利E Ⅲ～Ⅳ | | | | ○ | | 4層 | 内面黄褐 |
| 第11図 45 | 胴 | 微隆起線による懸垂文/縄文L R | 橙 5YR6/6 | 加曽利E Ⅲ | | ○ | | ○ | | 4層 | |
| 第11図 46 | 胴 | 微隆起線による懸垂文/縄文L R | 灰褐 5YR4/2 | 加曽利E Ⅲ～Ⅳ | | | ○ | ○ | | 4層 | 内面暗赤褐 |
| 第12図 47 | 胴 | 沈線による波状文/条線文/横位沈線文 | 明赤褐 2.5YR5/6 | 連弧文系 | | | | ○ | | 4層 | |
| 第12図 48 | 口縁 | 口縁部に微隆起を巡らせ、微隆起上に縄文/縄文R L/微隆起の上側には列点文、下側には列点を伴う沈線を沿わせる/沈線区画の磨消文 | にぶい褐 7.5YR6/3 | 加曽利EⅣ～称名寺Ⅰ | ○ | | | ○ | | 4層 | |
| 第12図 49 | 口縁 | 小波状口縁/波頂部上面に円形刺突文/口唇部肥厚/帯縄文L R | 橙 7.5YR6/6 | 称名寺Ⅰ | | | | ○ | | 4層 | |
| 第12図 50 | 口縁 | 帯縄文L R | にぶい褐 7.5YR5/3 | 称名寺Ⅰ | ○ | ○ | | ○ | | 4層 | |
| 第12図 51 | 口縁 | 波状口縁/帯縄文L R/穿孔（径約13mm） | 黒褐 5YR3/1 | 称名寺Ⅰ | | | | ○ | | 4層 | 突起部欠損 |
| 第12図 52 | 口縁 | 沈線による区画文/縄文L R | 明赤褐 5YR5/6 | 称名寺Ⅰ | | | | ○ | | 4層 | 内面は赤褐色 |
| 第12図 53 | 口縁 | 波状口縁/波頂部小突起先端に刺突文/帯縄文LR | 暗赤褐 5YR3/4 | 称名寺Ⅰ | ○ | ○ | ○ | ○ | | 4層 | |
| 第12図 54 | 胴 | 沈線と磨消による曲線文（J字文？）/縄文R L | にぶい黄橙 10YR7/3 | 加曽利EⅣ～称名寺Ⅰ | | | | ○ | | 4層 | 内面はにぶい橙色 |
| 第12図 55 | 胴 | 帯縄文L R(J字文？) | 浅黄橙 10YR8/4 | 称名寺Ⅰ | | | | ○ | 黒 | 4層 | 胎土に黒色粒子と空隙が目立つ |
| 第12図 56 | 胴 | 微隆起線・沈線による区画文(J字文？)/縄文R L | 黄褐 10YR5/8 | 称名寺Ⅰ | ○ | | ○ | ○ | 白 | 4層 | 内面赤褐色 |
| 第12図 57 | 胴 | 微隆起線・沈線による区画文/縄文R L | 明赤褐 5YR5/6 | 称名寺Ⅰ | ○ | | | ○ | 白 | 4層 | 内面黒褐色 |
| 第12図 58 | 胴 | 沈線・磨消しによる懸垂文/縄文L R | にぶい赤褐 5YR5/4 | 称名寺Ⅰ | | | ○ | ○ | | 4層 | 内面は明赤褐 |
| 第12図 59 | 胴 | 沈線/帯縄文R L | 橙 7.5YR6/6 | 称名寺Ⅰ | ○ | | | ○ | | 4層 | 内面褐色 |
| 第12図 60 | 胴 | 帯縄文L R | にぶい赤褐 5YR5/4 | 称名寺Ⅰ | | | | ○ | | 4層 | |
| 第12図 61 | 胴 | 沈線による区画文/縄文L R | 灰褐 5YR4/2 | 称名寺Ⅰ | | | | ○ | 白 | 4層 | |
| 第12図 62 | 胴 | 帯縄文LR(J字文？) | 灰褐 7.5YR5/2 | 称名寺Ⅰ | | | | ○ | | 4層 | |
| 第12図 63 | 胴 | 帯縄文LR/沈線上には列点文 | 橙 5YR6/6 | 称名寺Ⅰ | | | ○ | ○ | | 4層 | |
| 第12図 64 | 胴 | 沈線区画内に縄文L R(スペード文？)/円形刺突文 | にぶい赤褐 5YR4/4 | 称名寺Ⅰ？ | ○ | | | ○ | | 4層 | |
| 第12図 65 | 胴 | 帯縄文LR/懸垂文内に列点文 | 赤褐 5YR4/6 | 称名寺Ⅰ | ○ | ○ | | ○ | | 4層 | 石・角の混入は顕著 |
| 第12図 66 | 口縁 | 口唇部肥厚/沈線区画内に列点文充填 | 灰褐 7.5YR5/2 | 称名寺Ⅱ | | | | | | 4層 | |
| 第12図 67 | 胴 | 沈線区画内に列点文充填 | 橙 7.5YR6/6 | 称名寺Ⅱ | ○ | | | ○ | | 4層 | 内面赤褐色 |
| 第12図 68 | 胴 | 沈線区画内に列点文/ケズリ状の器面調整 | 褐灰 7.5YR4/1 | 称名寺Ⅱ | ○ | | | ○ | 白 | 4層 | |
| 第12図 69 | 口縁 | 口唇部は内切/沈線による懸垂文 | 黒褐 7.5YR3/2 | 称名寺Ⅱ～堀之内1 | | | | ○ | 白 | 4層 | |
| 第12図 70 | 胴 | 沈線文 | 橙 5YR6/6 | 称名寺Ⅱ～堀之内1 | | ○ | | | | 4層 | |

石：石英　角：角閃石・輝石　礫：細礫　砂：砂粒　白：白色粒子　褐：褐色粒子　黒：黒色粒子

第2表　包含層出土土器一覧（2）

| 挿図番号 | 部位 | 文様・特徴など | 色調 | 時期・型式 | 胎土混入物 | | | | | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 石 | 角 | 礫 | 砂 | 他 | | |
| 第12図 71 | 胴 | 沈線による曲線文 | 黒褐 7.5YR3/1 | 称名寺Ⅱ～堀之内1 | ○ | ○ | | ○ | | 4層 | |
| 第12図 72 | 胴 | 沈線による懸垂文 | 橙 5YR6/6 | 称名寺Ⅱ～堀之内1 | | | | ○ | | 4層 | |
| 第12図 73 | 胴 | 沈線文/縄文L.R | 灰褐 10YR5/2 | 称名寺・堀之内 | ○ | | | ○ | | 4層 | 内面黒褐色 |
| 第12図 74 | 胴 | 沈線文/縄文L.R | 褐灰 5YR4/1 | 称名寺・堀之内 | ○ | ○ | | ○ | | 4層 | 内面は橙色 |
| 第12図 75 | 口縁 | 波状口縁波頂部直下に横位2個の円形文/口縁部に沈線を巡らせる/沈線・蛇行沈線による懸垂文/沈線による「V」状文/円形刺突文/縄文LR | 黒褐 5YR3/1 | 堀之内1 | ○ | | | ○ | 白 | 4層 | 内面に輪積み痕が顕著 |
| 第12図 76 | 口縁 | 口縁部内側/口唇部外面に円形刺突文と沈線文/胴部に沈線文 | 褐灰 7.5YR4/2 | 堀之内1 | ○ | ○ | | ○ | | 4層 | 内面はにぶい橙色 |
| 第12図 77 | 口縁 | 波状口縁/波頂部小突起に3本の刻み/2本の沈線による懸垂文 | 橙 7.5YR7/6 | 堀之内1 | ○ | ○ | | ○ | | 4層 | |
| 第12図 78 | 口縁 | 波状口縁/波頂部突起に円形刺突文/沈線による懸垂文 | 明赤褐 5YR5/6 | 堀之内1 | | | | ○ | | 4層 | |
| 第12図 79 | 胴 | 刻みを施した隆帯による懸垂文/沈線/円形刺突文 | にぶい黄橙 10YR7/4 | 堀之内1 | ○ | | | ○ | | 4層 | 断面図の向き |
| 第12図 80 | 胴 | 沈線による渦巻文・懸垂文 | にぶい橙 7.5YR6/4 | 堀之内1 | | | | ○ | | 4層 | |
| 第12図 81 | 胴 | 沈線による弧線文・直線文 | 明赤褐 5YR5/6 | 堀之内2 | ○ | | | ○ | | 4層 | 安行3c？ |
| 第12図 82 | 胴 | 沈線による斜行文 | にぶい黄橙 10YR7/3 | 堀之内2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | 4層 | |
| 第13図 83 | 胴 | 沈線による斜行文・曲線文 | 橙 7.5YR7/6 | 堀之内1 | ○ | | | ○ | | 4層 | 内面は褐色 |
| 第13図 84 | 胴 | 頸部に巡らせた平行沈線の間に連続刺突文/縦位の沈線 | にぶい橙 7.5YR7/4 | 堀之内1 | | | | | | 4層 | |
| 第13図 85 | 胴 | 沈線を伴う貼付文による向かい合わせの弧線文/円形刺突文/帯縄文L.R | 橙 7.5YR7/6 | 堀之内1 | ○ | | | ○ | | 4層 | |
| 第13図 86 | 胴 | 沈線による懸垂文/縄文L.R | 褐灰 7.5YR5/1 | 堀之内1 | | | ○ | ○ | | 4層 | |
| 第13図 87 | 胴 | 平行沈線による懸垂文/縄文L.R | 黒褐 7.5YR3/1 | 堀之内1 | ○ | | | ○ | | 4層 | 内面はにぶい橙色 |
| 第13図 88 | 胴 | 平行沈線による直線・曲線文/地文は縄文か | にぶい褐 7.5YR5/3 | 堀之内1 | | | | | | 4層 | 内面は明赤褐色 |
| 第13図 89 | 口縁 | 口縁部内側/口唇部外面に沈線を巡らせ、下部に刻み/胴部は斜位条線文 | にぶい黄橙 10YR7/3 | 堀之内2 | | | | ○ | | 4層 | |
| 第13図 90 | 口縁 | 波状口縁/波頂部下に押圧を施した隆帯による懸垂文/口縁部内面に円形刺突文と縦位沈線文 | にぶい橙 7.5YR6/4 | 堀之内2 | ○ | | | ○ | | 4層 | |
| 第13図 91 | 口縁 | 波状口縁/波頂部内面に円形刺突文と口縁部直下に同心円状の弧線文/外面は帯縄文L.R | 褐灰 5YR5/2 | 堀之内2 | ○ | | | ○ | | 4層 | |
| 第13図 92 | 胴 | 口縁部直下に刻みを伴う隆帯/横位の帯縄文L.R | 褐灰 7.5YR4/1 | 堀之内2 | ○ | | | ○ | | 4層 | 内面は明赤褐色 |
| 第13図 93 | 胴 | 帯縄文L.R | 褐灰 7.5YR4/1 | 堀之内2 | | | | ○ | | 4層 | 内面はにぶい橙色 |
| 第13図 94 | 胴 | 横位区画に平行沈線による斜行文/縄文L.R | にぶい橙 7.5YR6/4 | 堀之内2 | | | | ○ | 褐 | 4層 | |
| 第13図 95 | 胴 | 沈線文（三角文？）/縄文RL | 褐灰 10YR5/1 | 堀之内2 | ○ | | | ○ | | 4層 | 内面はにぶい黄褐色 |
| 第13図 96 | 口縁 | 口唇部内部/外面口唇部直下に1本の沈線 | にぶい赤褐 5YR4/3 | 堀之内 | ○ | | | ○ | | 4層 | |
| 第13図 97 | 口縁 | 内面口唇部直下に浅い沈線/頸沈線による直線・弧線文 | 明赤褐 2.5YR5/6 | 加之内 | ○ | | | ○ | | 4層 | |
| 第13図 98 | 口縁 | 波状口縁？/隆帯上に刻み/沈線 | 橙 7.5YR7/6 | 堀之内 | | | | ○ | | 4層 | |
| 第13図 99 | 胴 | 3本の平行沈線による入組文/括れ部分に横位沈線文/縄文L.R | にぶい黄橙 10YR7/3 | 堀之内？ | | | | ○ | | 4層 | |
| 第13図 100 | 口縁 | 口唇部下に刻みを伴う隆帯を巡らせる/横位の帯縄文L.R | にぶい褐 7.5YR5/3 | 堀之内2～加曽利B1 | ○ | | | ○ | | 4層 | |
| 第13図 101 | 口縁 | 口唇上に矢羽根状の刻み/外面口唇部直下に刻みを伴う隆帯/沈線（帯縄文の区画線？）/内面口唇部直下に2条の沈線 | 黒褐 5YR3/1 | 堀之内2～加曽利B1 | | ○ | | ○ | 金 | 4層 | |
| 第13図 102 | 口縁 | 外面口唇部直下に刻みを伴う隆帯/沈線（帯縄文の区画線？）/内面口唇部に2段の隆帯を貼付 | 褐灰 7.5YR4/1 | 堀之内2～加曽利B1 | | | | ○ | 白 | 4層 | |
| 第13図 103 | 口縁 | 口唇部直下に刻みを伴う隆帯/内面口唇部直下に1本の沈線 | にぶい赤褐 5YR5/4 | 堀之内2～加曽利B1 | | ○ | | ○ | | 4層 | |
| 第13図 104 | 口縁 | 口唇部直下に刻みを伴う隆帯/内面口唇部直下に1本の沈線 | にぶい橙 5YR6/4 | 堀之内2～加曽利B1 | | ○ | ○ | ○ | | 4層 | |

石：石英　角：角閃石・輝石　礫：細礫　砂：砂粒　白：白色粒子　褐：褐色粒子　金：金雲母

第2表　包含層出土土器一覧（3）

| 挿図番号 | 部位 | 文様・特徴など | 色調 | 時期・型式 | 胎土混入物 | | | | | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 石 | 角 | 礫 | 砂 | 他 | | |
| 第13図105 | 口縁 | 波状沈線を横位に2段施文し、その頂部上に横位の沈線を3本巡らせ文様帯を形成/地文は縄文合撚R | 橙 2.5YR6/8 | 加曽利B1 | ○ | | | ○ | | 4層 | |
| 第13図106 | 口縁 | 口唇部外面を面取り/口縁部外面に4本の平行沈線を巡らせ(細横帯文)、沈線間に斜位の刻み | 加曽利B1 | にぶい黄橙 10YR7/3 | ○ | | | ○ | | 4層 | 内面は黒褐色 |
| 第13図107 | 口縁 | 口縁部に1本の沈線/口唇部内面に3本の平行沈線(細横帯文) | にぶい赤褐 5YR5/4 | 加曽利B1 | ○ | | | ○ | | 4層 | |
| 第13図108 | 胴 | 外面無文/内面に平行沈線文を巡らせ(細横帯文)、沈線間1本おきに斜位に刻み | 明赤褐 5YR5/6 | 加曽利B1 | ○ | | | ○ | | 4層 | |
| 第13図109 | 胴 | 横帯文(縄文LR)/沈線 | にぶい褐 7.5YR6/3 | 加曽利B1 | ○ | | | ○ | | 4層 | |
| 第13図110 | 把手 | 橋状把手/円形刺突を伴う「8」の字状貼付文 | 黒褐 7.5YR3/1 | 加曽利B | | ○ | | ○ | | 4層 | |
| 第13図111 | 胴 | 頸部に6本の平行沈線文/胴部は4～5本1単位の平行沈線による弧線文(同心円文?) | にぶい褐 7.5YR5/4 | 加曽利B | ○ | ○ | | ○ | | 4層 | 内面はにぶい黄褐色 |
| 第13図112 | 底 | 5本1単位の平行沈線による弧線文(同心円文?) | 黒褐 7.5YR3/1 | 加曽利B | ○ | | | ○ | | 4層 | 内面黒色 |
| 第13図113 | 胴 | 横帯文(縄文LR)/沈線 | 橙 5YR6/6 | 加曽利B? | ○ | | | ○ | | 4層 | 裏面は灰褐色 |
| 第14図114 | 注口 | 注口部上半/付け根部分に沈線/外面に指跡あり | 橙 5YR6/6 | 後期 | ○ | | | ○ | 片 | 4層 | |
| 第14図115 | 胴 | 縄文LR | 橙 7.5YR6/6 | 後期? | | | | ○ | | 4層 | |
| 第14図116 | 胴 | 縄文LR | 灰褐 7.5YR5/2 | 後期? | | | | ○ | | 4層 | 内面橙色 |
| 第14図117 | 底 | 無文 | 明赤褐 2.5YR5/6 | 後期? | | | | ○ | | 4層 | |
| 第14図118 | 底 | 網代痕 | 暗赤褐 5YR3/4 | 後期 | | | | ○ | | 4層 | |
| 第14図119 | 口縁 | 口唇部内面直下に1本の沈線/外面無文 | 橙 5YR6/6 | 後期粗製 | | ○ | | ○ | | 4層 | |
| 第14図120 | 口縁 | 外面無文/口唇部直下内面に沈線/斜位のナデ調整か | 明赤褐 5YR5/8 | 後期粗製 | ○ | ○ | | ○ | | 4層 | |
| 第14図121 | 口縁 | 無文/口縁部内溝/指頭による横位のナデ調整か | にぶい橙 7.5YR7/3 | 後期粗製 | | | | ○ | | 4層 | |
| 第14図122 | 口縁 | 口唇部はやや薄い/縄文LR | 浅黄橙 7.5YR8/4 | 後期粗製 | | | | ○ | | 4層 | |
| 第14図123 | 胴 | 7本単位の斜位の条線文 | 褐灰 5YR4/1 | 後期粗製 | ○ | | | ○ | | 4層 | 99と同一個体 |
| 第14図124 | 胴 | 7本単位の斜位の条線文 | 褐灰 5YR4/1 | 後期粗製 | ○ | | | ○ | | 4層 | 97と同一個体 |
| 第14図125 | 胴 | 正反の合撚(R) | 橙 7.5YR6/6 | 後期粗製 | ○ | | | ○ | | 4層 | 半分は黒褐色 |
| 第14図126 | 胴 | 沈線による格子目文 | 橙 5YR6/6 | 後期粗製 | | | ○ | ○ | | 4層 | |
| 第14図127 | 胴 | 細沈線による格子目文 | にぶい赤褐 5YR4/3 | 後期粗製 | ○ | ○ | | ○ | | 4層 | |
| 第14図 1 | 胴 | 貝殻条痕文(内外面) | 橙 7.5YR6/6 | 条痕文系 | | | | ○ | 繊 | 7層 | 内面は黒色 |
| 第14図 2 | 胴 | 貝殻条痕文(内外面) | 橙 7.5YR6/6 | 条痕文系 | | | ○ | ○ | 繊 | 7層 | 内面は黒色 |
| 第14図 3 | 胴 | 貝殻条痕文(内外面) | 橙 5YR6/6 | 条痕文系 | | | | ○ | 繊 | 7層 | 内面は黒色 |
| 第14図 4 | 胴 | 貝殻条痕文(内外面) | 明赤褐 5YR5/6 | 条痕文系 | | | ○ | ○ | 繊 | 7層 | |
| 第14図 5 | 胴 | 貝殻条痕文(内外面) | 明赤褐 5YR5/6 | 条痕文系 | | | | ○ | 繊 | 7層 | 内面は灰黄褐色 |
| 第14図 6 | 胴 | 貝殻条痕文(内外面) | にぶい黄褐 10YR6/4 | 条痕文系 | | | | ○ | 繊 | 7層 | |
| 第15図 7 | 胴 | 貝殻条痕文(外面) | 黒褐 7.5YR3/2 | 条痕文系 | ○ | | | ○ | 繊 | 7層 | |
| 第15図 8 | 口縁 | 縄文R | にぶい黄褐 10YR7/4 | 黒浜? | | | | | 繊 | 7層 | |
| 第15図 9 | 胴 | 半截竹管による平行沈線文の間と上下に、向きの異なる斜位の刻み/縄文RL | 灰 10YR2/1 | 諸磯b | | ○ | | | | 7層 | 内面は褐灰色 |
| 第15図 10 | 口縁 | 口唇部直下に半截竹管による平行沈線、その下に斜行沈線/縄文LR? | 明褐 10YR5/6 | 諸磯b | | | | ○ | | 7層 | |
| 第15図 11 | 胴 | 半截竹管による隆帯区画内に格子状の集合沈線/三角・円形の陰刻文 | 灰黄褐 10YR4/2 | 五領ヶ台 | | ○ | | ○ | | 7層 | |
| 第15図 12 | 口縁 | 口縁部内溝/口縁部無文/頸部に刻みを伴う隆帯を巡らせる | にぶい褐 7.5YR5/4 | 勝坂 | | | | ○ | 褐 | 7層 | |

石：石英　角：角閃石・輝石　礫：細礫　砂：砂粒　片：片岩　繊：繊維　褐：褐色粒子

第2表　包含層出土土器一覧（4）

| 挿図番号 | 部位 | 文様・特徴など | 色調 | 時期・型式 | 胎土混入物 | | | | | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 石 | 角 | 礫 | 砂 | 他 | | |
| 第15図 13 | 胴 | 隆帯区画に沈線を充填/隆帯の一部は剥落 | 浅黄橙 7.5YR8/3 | 磨坂 | | | ○ | | | 7層 | |
| 第15図 14 | 胴 | 押引文/連続爪形文/条線文・蛇行条線文 | 橙 5YR6/6 | 中期？ | | | ○ | | | 7層 | |
| 第15図 15 | 胴 | 沈線による蛇行懸垂文/撚糸文L | 明黄褐 10YR7/6 | 加曽利E Ⅱ | | | ○ | | | 7層 | 内面はにぶい黄褐色 |
| 第15図 16 | 胴 | 直線および「U」字状の沈線と磨消しによる懸垂文/縄文R L | にぶい黄褐 2.5YR4/3 | 加曽利E Ⅲ | | | ○ | | 褐 | 7層 | 褐色粒子は粘土小塊 |
| 第15図 17 | 胴 | 縄文L R/対向U字状の磨消区画文 | 明赤褐 5YR5/6 | 加曽利E Ⅲ | ○ | ○ | ○ | | | 7層 | 内面は黒褐色 |
| 第15図 18 | 口縁 | 口縁部直下に列点文/磨消と平行沈線による区画文/縄文L R | にぶい褐 7.5YR5/3 | 加曽利E Ⅲ～Ⅳ | ○ | | ○ | | | 7層 | 内面は黒褐色 |
| 第15図 19 | 胴 | 磨消・微隆起による懸垂文/縄文L R | にぶい黄橙 10YR6/4 | 加曽利E Ⅲ～Ⅳ | ○ | ○ | ○ | | | 7層 | 内面は橙色 |
| 第15図 20 | 胴 | 沈線/縄文L R | 褐灰 10YR4/1 | 加曽利E Ⅲ～Ⅳ | | | | | 褐 | 7層 | 内面はにぶい黄褐色 |
| 第15図 21 | 胴 | U字文/縄文L R | 橙 5YR6/6 | 加曽利E Ⅲ～Ⅳ | ○ | | ○ | | | 7層 | 粗粒の砂の混入が顕著 |
| 第15図 22 | 胴 | 沈線/磨消/縄文L R | 褐灰 10YR4/1 | 加曽利E Ⅳ | | | ○ | | | 7層 | |
| 第15図 23 | 胴 | 頸部に隆帯を巡らせる/縄文R L | にぶい褐 7.5YR5/4 | 加曽利E | | | ○ | | | 7層 | |
| 第15図 24 | 胴 | 太沈線と隆帯による渦巻文？/縄文R L R | 橙 7.5YR7/6 | 加曽利E | | | ○ | | | 7層 | |
| 第15図 25 | 胴 | 縄文R L | 橙 7.5YR7/6 | 加曽利E | | | ○ | | | 7層 | |
| 第15図 26 | 口縁 | 帯縄文L R | にぶい赤褐 5YR5/3 | 称名寺Ⅰ | ○ | | ○ | | | 7層 | 内面は明赤褐色 |
| 第15図 27 | 胴 | 微隆起線・沈線による区画を磨消L/縄文R L | 灰黄褐 10YR4/3 | 称名寺Ⅰ | ○ | | ○ | ○ | | 7層 | 内面はにぶい赤褐色 |
| 第15図 28 | 胴 | 帯縄文L | 灰黄褐 10YR6/2 | 称名寺Ⅰ | | ○ | ○ | | | 7層 | 内面橙色 |
| 第15図 29 | 胴 | 帯縄文L | にぶい黄橙 10YR6/4 | 称名寺Ⅰ | | | ○ | | | 7層 | 内面は橙色 断面に繊維痕 |
| 第15図 30 | 胴 | 巴形に組み合わせた、沈線・刺突を伴う弧状の貼付文/沈線による区画文/縄文L R | にぶい赤褐 2.5YR4/4 | 称名寺Ⅱ～堀之内1 | ○ | | ○ | | | 7層 | |
| 第15図 31 | 胴 | 斜行沈線文/縄文L R | 黒褐色 10YR3/1 | 堀之内1 | | ○ | ○ | | | 7層 | |
| 第15図 32 | 口縁 | 口唇部内脇/口縁直下に8の字状貼付文/山形の沈線文/帯縄文L R | にぶい赤褐 5YR4/4 | 堀之内2 | | ○ | ○ | | | 7層 | 内面は黒褐色 |
| 第15図 33 | 口縁 | 口唇部直下に刺みを伴う貼付文/横位の細沈線/口唇部内面直下に浅い沈線 | 褐灰 7.5YR4/1 | 堀之内2 | ○ | ○ | ○ | | | 7層 | |
| 第15図 34 | 口縁 | 口唇部内折/口唇部直下に刺みを伴う貼付文/帯縄文L R | にぶい赤褐 2.5YR4/4 | 堀之内2～加曽利B1 | | | ○ | | | 7層 | 内面は明赤褐色 |
| 第15図 35 | 胴 | 横位の沈線区画内に長短の沈線を2段に充填/縄文L R | 褐灰 10YR4/1 | 堀之内？ | | | ○ | | | 7層 | 内面はにぶい黄橙色 |
| 第15図 36 | 胴 | 沈線（入組文？）/縄文L R | にぶい褐 7.5YR5/3 | 堀之内2～加曽利B1 | | | ○ | | | 7層 | 内面は灰褐色 |
| 第15図 37 | 胴 | 縄文L R | 黒褐色 10YR3/2 | 後期 | | | ○ | | 褐 | 7層 | 裏面は明赤褐色 |
| 第15図 38 | 胴 | 縄文L R | にぶい赤褐 5YR5/3 | 後期 | | | ○ | | 褐 | 7層 | 裏面は明赤褐色 |
| 第15図 39 | 胴 | 縄文L | にぶい黄褐 10YR6/3 | 後期 | ○ | | ○ | | | 7層 | 内面赤褐色 |
| 第15図 40 | 胴 | 条線文 | にぶい黄褐 10YR5/3 | 後期 | | | ○ | | 褐 | 7層 | 褐色粒子はローム小塊？ |
| 第15図 41 | 胴 | 条線文 | 灰黄褐 10YR6/2 | 後期 | | | ○ | | 褐 | 7層 | |
| 第15図 42 | 胴 | 条線文 | 灰黄褐 10YR6/2 | 後期 | | | ○ | | | 7層 | 内面はにぶい橙色 |
| 第15図 43 | 胴 | 斜行沈線文 | 明赤褐 5YR5/6 | 後期 | | ○ | ○ | | | 7層 | |
| 第15図 44 | 胴 | 平行沈線文/縄文L R？ | 橙 7.5YR7/6 | 後期 | ○ | | ○ | | | 7層 | |
| 第15図 45 | 胴 | 沈線区画による文様帯に格子目状沈線文 | 赤褐 5YR4/6 | 後期粗製 | ○ | ○ | ○ | | | 7層 | |
| 第15図 46 | 胴 | 横位の沈線区画に斜行する沈線文/縄文R L | にぶい黄褐 10YR5/3 | 後期粗製 | ○ | | ○ | | | 7層 | |
| 第15図 47 | 胴 | 細沈線による懸垂文？ | 黒褐色 10YR3/1 | 後期粗製 | ○ | | ○ | | | 7層 | 内面はにぶい黄橙色 |

石：石英　角：角閃石・輝石　礫：細礫　砂：砂粒　褐：褐色粒子

第2表　包含層出土土器一覧（5）

| 挿図番号 | 部位 | 文様・特徴など | 色調 | 時期・型式 | 胎土混入物 | | | | | 出土位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 石 | 角 | 礫 | 砂 | 他 | | |
| 第15図 48 | 底 | 底部擦代痕 | にぶい橙 7.5YR7/4 | 後期 | | | | ○ | | 7 層 | |
| 第16図 1 | 胴 | 貝殻条痕文（内外面） | にぶい赤褐 2.5YR5/4 | 条痕文系 | | | | ○ | 繊 | 8 M | 内面はにぶい褐色 |
| 第16図 2 | 胴 | 貝殻条痕文（内外面） | にぶい橙 5YR6/4 | 条痕文系 | | | | ○ | 繊 | 8 M | 内面はにぶい褐色 |
| 第16図 3 | 胴 | 押引文を伴う隆帯区画/沈線による鋸歯状文 | 橙 5YR6/6 | 勝坂 | | | | ○ | 金 | 8 M | |
| 第16図 4 | 口縁 | 小波状口縁/口縁部直下に隆帯/縄文ＲＬ | にぶい赤褐 2.5YR4/4 | 加曽利Ｅⅰ～Ⅱ | | | | ○ | | 8 M | |
| 第16図 5 | 口縁 | 磨消による波状文/縄文ＬＲ | にぶい橙 7.5YR6/6 | 加曽利Ｅⅲ | | | | ○ | | 8 M | |
| 第16図 6 | 口縁 | 沈線区画による口縁部無文帯/縄文Ｌ | にぶい橙 5YR6/4 | 加曽利ＥⅣ | | | | ○ | 褐 | 8 M | 内面は黒褐色 |
| 第16図 7 | 胴 | 撚糸文Ｌ | にぶい橙 7.5YR6/4 | 加曽利Ｅⅰ～Ⅱ | | | | ○ | | 8 M | |
| 第16図 8 | 口縁 | 沈線によるＶ字区画/縄文ＬＲ | にぶい赤褐 2.5YR5/3 | 加曽利ＥⅣ | | | | ○ | | 8 M | 砂は粗粒 |
| 第16図 9 | 口縁 | 波状口縁/波頂部に刺突/帯縄文ＲＬ | 灰褐 5YR5/2 | 称名寺Ⅰ | | | ○ | ○ | | 8 M | |
| 第16図 10 | 胴 | 沈線・微隆起線による区画（渦巻き文？）に縄文Ｋ | 褐灰 5YR4/1 | 称名寺Ⅰ | ○ | | ○ | ○ | | 8 M | |
| 第16図 11 | 胴 | 沈線区画（Ｊ字文）に縄文ＬＲ | にぶい黄橙 10YR6/3 | 称名寺Ⅰ | | ○ | | ○ | 褐 | 8 M | |
| 第16図 12 | 胴 | 縄文ＬＲ/沈線 | 灰褐 5YR4/2 | 称名寺Ⅰ | ○ | | | ○ | | 8 M | |
| 第16図 13 | 胴 | 沈線区画に刺突列文 | にぶい赤褐 5YR4/3 | 称名寺Ⅱ | ○ | | | ○ | | 8 M | 内面はにぶい赤褐色 |
| 第16図 14 | 胴 | 平行沈線/斜行した条線文 | 褐灰 5YR4/1 | 堀之内Ⅰ | ○ | | | ○ | | 8 M | |

石：石英　角：角閃石・輝石　礫：細礫　砂：砂粒　繊：繊維　金：金雲母　褐：褐色粒子

第２表　包含層出土土器一覧（６）

**縄文時代後期の土器群**（９～14）

９～13は称名寺式の土器片。14は堀之内式土器の胴部片である。

**平安時代の須恵器**（15）

甕形土器の胴部破片と思われる。色調は暗灰褐色を呈し、胎土には白色砂粒を含む。内面には当て道具痕（無文）、外面には平行叩き目痕が残る。

## 第２節　近世以降の遺構

### （１）土　坑

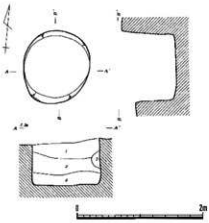
**105号土坑**（第17図）

［構造］（平面形）楕円形。（規模）120×105㎝・深さ60～85㎝を測る。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がり、形状は円筒形を呈する。（主軸方位）Ｎ－Ｓ。

［覆土］

１層　黒褐色土（10YR3／2）。ローム粒子を僅かに含む。軟質。

２層　黒褐色土（7.5YR3／2）。ローム粒子を多く含む。骨粉と思われる灰白色小ブロックを僅かに含む。軟質。




第17図　105号土坑（１／60）

3 層　にぶい褐色土（7.5YR5／3）。ロームブロック。硬質。

4 層　黒褐色土（10YR3／1）。ローム粒子を僅かに含む。湿り気をおびる。軟質。

［遺物］本遺構に伴うと思われる遺物の出土はなかった。

［時期］近世以降か。

［所見］骨粉と思われる灰白色小ブロックの存在や形状からみて、墓壙の可能性が大きい。

## （2）溝　跡

### 7号溝跡（第18図）

［構造］8号溝跡との新旧関係は不明。（規模）ほぼ南北に走向するが、南側では西に弧を描き8号溝跡と合流する。上幅45～56cm・下幅18～25cmを測る。確認面からの深さは20～33cmであるが、溝底は北から南に向けて傾斜して下がっていて、深さは北側と南側とでは30cm前後の差がある。横断面形は逆台形を呈し、壁は60°前後の角度で立ち上がる。

［覆土］

1 層　黒褐色土（10YR3／1）。ローム粒子を僅かに含む。軟質。

2 層　黒褐色土（10YR3／2）。ローム粒子を含む。軟質。

3 層　灰黄褐色土（10YR4／2）。ローム粒子を多く含む。軟質。

［遺物］本遺構に伴うと思われる遺物の出土はなかった。

［時期］近世以降か。

### 8号溝跡（第18図）

［構造］3号住居跡・14号炉穴を切る。7号溝跡との新旧関係は不明。（規模）ほぼ南北に走向する。横断面は確認できた部分で、上幅105cm前後・中幅25cm・下幅18cm前後を測り、溝底は西側に一段平坦面を有する。壁の立ち上がりは西側が急斜で80°前後、東側は一段棧を持ち30°前後の角度で立ち上がる。確認面からの深さは25～50cmであるが、溝底は北から南に傾斜して下がっていて、深さは北側と南側とでは70cm前後の差がある。

［覆土］

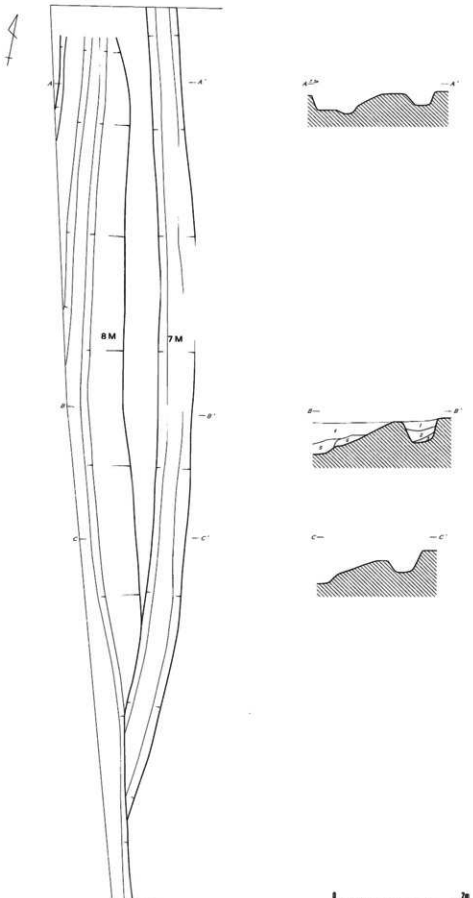
4 層　黒褐色土（10YR3／1）。ローム粒子を僅かに含む。軟質。

5 層　黒褐色土（10YR3／2）。ローム粒子を含む。軟質。

6 層　灰黄褐色土（10YR4／2）。ローム粒子を多く含む。やや硬質。

［遺物］本遺構に伴うと思われる遺物の出土はなかった。

［時期］近世以降か。




第18図　7・8号溝跡（1／60）

# 第4章　調査のまとめ

中野遺跡は、これまでの発掘調査によって、旧石器時代、縄文時代（早～晩期）、弥生時代（後期）、古墳時代（前～後期）、平安時代、中世、近世の複合遺跡であることが確認されている。

本調査地点では、縄文時代の住居跡1軒（3号住居跡・中期後半）、土坑1基（106号土坑・早期後半）、炉穴5基（12号～16号土坑・早期後半）、近世以降の土坑1基（105号土坑・墓壙の可能性高）、溝跡2本（7号・8号溝跡・性格は不明）が検出された。また遺構外では、須恵器なども含む縄文時代を中心とした遺物包含層が確認され、早期後葉から後期中葉にかけての土器が出土した。

特に、遺物包含層については、本地点以外の調査でも確認されているため、本章では、本地点が含まれる中野遺跡における遺物包含層について簡単にまとめることにしたい。

中野遺跡は新河岸川に面した台地の北端に在り、遺跡の西側には柳瀬川に向かって南北に走る谷が入っている。この谷に面した斜面にはローム漸移層の遺存するところが多く、縄文時代をはじめとする遺物が混入している部分は遺物包含層として捉えられている。包含層出土の遺物が報告されている地点の遺構確認面の標高は、第2地点で約9.1m、第43地点で約9.2m、第49地点で約8.8mを測り、今回の第71地点では7.3mというようにこれらよりも高い位置に在る遺跡の東半では、現在までのところ遺物包含層は報告されていない。

遺物としては、縄文中期後葉の加曽利E式期～後期前葉の堀之内式期の土器を中心に出土する傾向にあり、特に、第49地点と今回の第71地点では、ある程度まとまった量の土器が出土している。

興味深いのは、縄文期の土器群で、特に堀之内～加曽利B式土器は、谷の反対斜面に位置する城山遺跡北端部を含めた、前述の南北の谷周辺に特徴的なものである。そのため、当該期の中心がこの近隣にあったことが想像され、西原大塚遺跡を中心に柳瀬川沿いに広がる中期後葉から後期初頭にかけての遺跡との関連が注目される。しかし、志木市内での後期の遺構は検出例が少なく、既報の住居跡は西原大塚遺跡の99号住居跡（加曽利B1式期）に限られ、今後の調査が待たれる。

また、今回の調査では、4層から平安時代を主とする須恵器が出土している。図示できるものは少なかったが、出土量は比較的まとまっており、4層が平安時代以降に形成された可能性を示唆するものである。これは、本調査地点が、傾斜地にあることから、雨水の影響などによって土壌の攪拌等がおきやすく、縄文と平安という異なる時代の遺物が伴って出土したものと考えられる。

**［引用・参考文献］**


尾形則敏　1992「第3章　中野遺跡第12地点の調査」『志木市遺跡群Ⅳ』志木市の文化財第17集　埼玉県志木市教育委員会

1993「第3章　中野遺跡第18地点の調査」『志木市遺跡群Ⅴ』志木市の文化財第20集　埼玉県志木市教育委員会

1995「第2章　中野遺跡第31地点の調査」『志木市遺跡群Ⅵ』志木市の文化財第21集　埼玉県志木市教育委員会

2001「第2章　中野遺跡第50地点の調査」『志木市遺跡群11』志木市の文化財第30集　埼玉県志木市教育委員会

尾形則敏・深井恵子　1997「第9章　中野遺跡第41地点の調査」『志木市遺跡群Ⅷ』志木市の文化財第25集　埼玉県志木市教育委員会

1999「第2章　中野遺跡第43地点の調査」『志木市遺跡群9』志木市の文化財第27集　埼玉県志木市教育委員会

2001「中野遺跡第25地点」『埋蔵文化財調査報告書2』志木市の文化財第31集　埼玉県志木市教育委員会

尾形則敏・深井恵子・青木　修　2004「中野遺跡第49地点」『東京電力志木変電所の埋蔵文化財発掘調査報告』志木市遺跡調査会調査報告　第７集　埼玉県志木市遺跡調査会
2009『埋蔵文化財調査報告書４』志木市の文化財第40集　埼玉県志木市教育委員会
佐々木保俊　1989「第３章　中野遺跡6a・6b地点の調査」『志木市遺跡群Ⅰ』志木市の文化財第13集　埼玉県志木市教育委員会
佐々木保俊・尾形則敏　1985「第２章　中野遺跡第2地点の調査」『西原大塚遺跡第３地点　中野遺跡第２地点発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第１集　埼玉県志木市遺跡調査会
1996「第５章　中野遺跡第11地点の調査」「第６章　中野遺跡第16地点の調査」志木市の文化財第24集　埼玉県志木　市教育委員会
石井寛　1993「牛ヶ谷遺跡　華蔵台南遺跡Ⅰ港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告　XV　財団法人横浜市ふるさと歴史財団
1992　称名寺式土器の分類と変遷」『調査研究集録　第９冊』　財団法人横浜市ふるさと歴史財団
小倉均・柳田博之・山田尚友他　2000「鬥谷遺跡（第７次）・南方遺跡（第３次）・南方上台遺跡（第１次）・行谷遺跡（第２次）発掘調査報告書」浦和市遺跡調査会報告書　第274集　浦和市遺跡調査会
2000「鬥谷遺跡（第８次）・南方遺跡（第４次）・南方西台遺跡（第１次）南方上台遺跡（第２次）発掘調査報告書」浦和市遺跡調査会報告書　第274集　浦和市遺跡調査会
上野真由美・渡辺清志　2005「雅楽谷遺跡Ⅱ」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第307集　財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団・独立行政法人　国立病院機構
西井幸雄・鈴木孝之　2008「大木戸遺跡Ⅰ」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第355集　財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団・独立行政法人　都市再生機構
小倉和重　2009「宮内井戸作遺跡　ちばリサーチパーク開発事業予定地内埋蔵文化財調査（８）」印旛郡市文化財センター発掘調査報告書 第266集　財団法人印旛郡市文化財センター

# 図　　版

1．表土剥ぎ風景

2．遺構確認風景

3．3号住居跡

4．106号土坑

5．12号炉穴

6．13号炉穴

7．14号炉穴

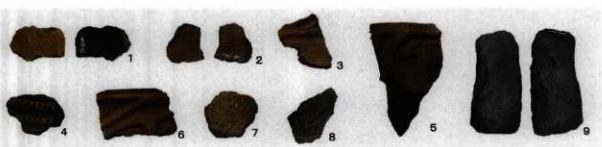
8．15号炉穴

1．16号炉穴

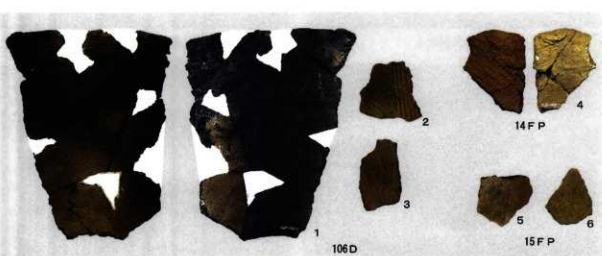
2．包含層精査風景

3．105号土坑

4．7号・8号溝跡




5．3号住居跡出土遺物




6．土坑・炉穴出土遺物

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46

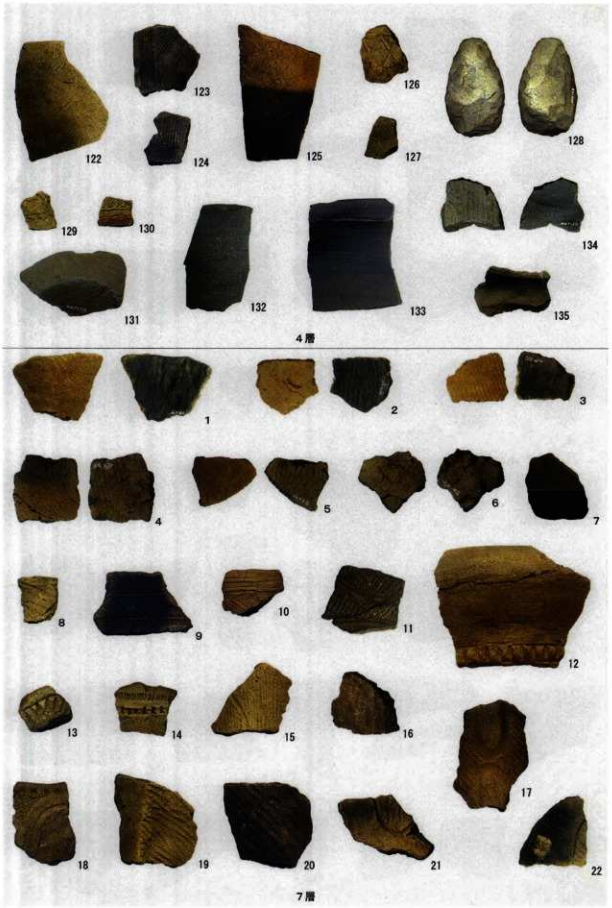
包含層出土遺物1（4層）

47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82

包含層出土遺物２（４層）

83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121

包含層出土遺物3（4層）




包含層出土遺物4（4層・7層）

包含層出土遺物5（7層・8M）

# 報告書抄録

| | | | |
|---|---|---|---|
| ふりがな | なかのいせきだい71ちてん　まいぞうぶんかざいはっくつちょうさほうこくしょ | | |
| 書名 | 中野遺跡第71地点　埋蔵文化財調査報告書 | | |
| 副書名 | | | |
| シリーズ名 | 志木市の文化財 | 巻次 | 第43集 |
| 編著者 | 佐々木保俊　内野美津江 | | |
| 編集機関 | 埼玉県志木市教育委員会 | | |
| 所在地 | 〒353－0002　埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号　TEL 048 (473) 1111 | | |
| 発行年月日 | 平成22（2010）年3月31日 | | |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯<br>(°′″) | 東経<br>(°′″) | 調査期間 | 調査面積<br>(㎡) | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 中野遺跡<br>（第71地点） | 志木市柏町<br>1丁目1513－1 | 11228 | 002 | 35°<br>49′<br>58″ | 139°<br>34′<br>21″ | 20081118<br>～<br>20081216 | 201.40<br>（全体<br>634.87） | （仮称）埋蔵文化財センター建設 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 中野遺跡<br>（第71地点） | 集落 | 縄文時代中期<br>早期 | 住居跡　1軒<br>土坑　1基<br>炉穴　5基<br>遺物包含層 | 土器・石器<br>土器片<br>土器小片<br>土器・石器 | 遺物包含層からは、縄文時代後期の土器を主体とする遺物が多く出土している。 |
| | | 近世以降 | 土坑　1基<br>溝跡　2本 | | 105号土坑は骨粉と思われる灰白色小ブロックの存在や形状から、墓壙の可能性が大きい。 |

志木市の文化財　第43集

# 中野遺跡第71地点

## 埋蔵文化財発掘調査報告書

発　　行　　埼玉県志木市教育委員会
埼玉県志木市中宗岡１丁目１番１号
発 行 日　　平成22（2010）年３月31日
印　　刷　　株式会社　白　峰　社